



地・球・と・人・に・や・さ・し・い マチのほっとステーション

ローソン 環境保全・社会貢献活動への取り組み報告 2004

地・球・と・人・に・や・さ・し・い マチのほっとステーション

環境保全・社会貢献活動への 取り組み報告

2004

株式会社ローソン

発行 総務ステーション 環境社会貢献
東京都品川区大崎1丁目11番2号 〒141-8643
ゲートシティ大崎 イーストタワー
Tel.03-5435-1350 Fax.03-5759-6944

発行日 2004年7月
次回発行 2005年6月予定

本資料はローソンホームページにも掲載されています。

ホームページ <http://www.lawson.co.jp/>



●この報告書は、エコマーク認定の印刷用紙(古紙利用100%)を使用しています。
●アメリカ大豆協会認定の大豆油インキで印刷しています。

LAWSON

この報告書について

今回発行する「環境保全・社会貢献活動への取り組み報告2004」(サステナビリティ・レポート)は、ローソンとしての第6刊の報告書です。2003年度の環境保全・社会貢献活動を主な対象としています。企業としての社会的責任を果たし、高いモラルを持って企業活動を行うために、私たちにできることは何かと真摯に考えながら、取り組んでまいりました。本報告書によって、経済・社会・環境という3つの側面において、私たちローソンがどのような企業活動を行ってきたかをご理解いただければ幸いです。

本報告書では、全国の店舗で行ってきた環境保全・社会貢献活動の状況を報告するにあたり、お客さまと地域社会と店舗とローソン本部を結ぶコミュニケーションの双方向化にも努めました。「マチのほっとステーション」をスローガンに、ローソンを取り巻くすべての方々の共鳴を大切にしていまいります。

なお編集にあたっては、ローソンの企業活動(経済・社会・環境)の全体を、GRI(Global Reporting Initiative)の定めるサステナビリティの概念を参考にまとめました。また、2003年度版の報告書をご覧いただいた皆さまから寄せられたご意見、ご要望も反映しました。グラフや写真を多く使うなど、よりわかりやすい報告書となるように努めました。

今後もきめ細やかな、かつ真摯な報告書を目指します。

皆さまの、率直なご意見をお待ちしております。

“真”のマチのほっとステーションへ 皆さまのニーズに応じてローソンは進化しつづけます

均一から個性へ、マチに合った個性ある店づくり

「マチのほっとステーション」は、地域のお客さまのニーズにお応えし、ホットな(新しい)商品、情報、サービスを提供する、地域のお客さまがほっとした気持ちになれるステーション(憩いの場)です。そして何よりも、お客さまが住む「マチ」に合った個性があり、真に地域の皆さまのニーズに応えられるお店です。地域の特性やお住まいの方の構成に違いがある中で、マチ独特のニーズに合った品ぞろえやサービスを付加していくことも、これからのコンビニエンスストアのあり方だと考えています。

私たちは、マチのお客さまを理解し、そして喜んでいただけるお店・売場づくりを行うために全社をあげて「3つの徹底(心のこもった接客)(マチのお客さまに喜んでいただけるお店づくり)(お店とマチをキレイにする)」に取り組んでいます。マチに合ったきれいなローソンにまた来ていただけるよう心のこもった接客を行っていきます。

スピーディーな経営と人材育成を大切に

私たちは、マチに合ったローソンを実現するために、スピーディーな経営と人材育成を心がけています。

ローソンは支社制を導入し、7人の支社長が経営を担う機動力のある組織体制を整えています。お客さまにより近い視点に立ち、加盟店のオーナーさんやクルーさんとの連携をとっていくために、さらに現場に近い立場の社員へと権限委譲を進めています。

そのために、人材育成に力を入れています。教育の体系を見直し、社員一人ひとりが経営の視点で考え、業務を遂行する能力を身につけられるようなプログラムを新設しました。

お客さまの最高の満足を目指す私たちの理念が、ローソンのお店でのサービスに結実し、お客さまの便利で快適な生活に貢献できることを願っています。

課題に真摯に向き合い、一層の企業価値向上を目指す

私たちは地域のお客さまのための「マチのほっとステーション」の実現にあたって地球環境と調和する企業活動を志向し、事務所および店舗で、環境負荷の削減、省エネルギーや省資源に対する取り組みを続けています。

一方で食品廃棄物や容器包装などゴミの問題は大きな課題です。私たちはこの課題を真摯に受けとめ、発注精度の向上による無駄な廃棄の削減や、環境負荷の少ない容器包装の開発などによって、環境負荷を低減させる施策に地道に取り組んでいきます。

また、緑化事業や地域の美化活動、自治体の活動への参加などの環境保全活動と社会貢献活動への参加・協力は、私たちにできる有益な活動です。これまでもこれからも、積極的に取り組んでまいります。

全国に7,821店舗を展開するローソンの社会的な責務は、とても大きいと自覚しています。皆さまの豊かで便利な生活の実現とともに、環境との調和と社会への貢献を目標に、私たちは今後ますます創造的に行動し、企業価値の向上を目指していきます。

株式会社ローソン
代表取締役
社長執行役員

新浪 剛史



企業理念

私たちローソンは人を大切にする心と創造的な行動を通じて
お客さまの便利な生活と地域社会の発展に貢献します。

行動指針

私たちは、お客さまに対して最高の満足を提供することを喜びとしています。お客さまに最高の満足を提供するために、企業理念を共通の価値基準とし、企業を取り巻く全てのステイクホルダーの方に対しどのような姿勢で何を重視して行動するかをローソンの行動指針として決めました。



2004 環境保全・社会貢献活動への 取り組み報告

目次

この報告書について	2
発行にあたって	3
企業理念／行動指針	4
ローソンのCS（お客さま満足）	6
企業姿勢	7
ステイクホルダーとのコミュニケーション	8
お客さまの声／様々な社内コミュニケーション手段	9
ローソンの教育体系	10
生き生きと働ける職場づくり	11
会社概要	12
店舗の環境保全活動	14
「安全・安心・健康」で「おいしい」商品	16
オリジナル商品の品質管理	18
工場と配送センターの品質管理	20
ローソンの物流体制	22
安全・安心・健康な容器包装	24
店舗の廃棄物実態調査	25
環境対策実験店／最新の省エネ・環境配慮システム	26
事業所が取り組む環境保全活動／自治体への協力	27
地域社会との連携	28
災害時募金／LAWSON PASSで社会貢献活動	29
地域社会への支援	30
様々なサービスの提供	31
ナチュラルローソン	32
地域に密着した店舗	33
一店一役運動・はっとステーションMAP	34
緑化貢献事業／ローソン緑の募金	36
全国に広がる緑化活動	38
環境方針（ISO14001）	40
環境会計	41
2003年度目的・目標達成状況	42
2004年度環境目標	44
所見	45
環境活動のあゆみ	46
第三者の声	47

※サステナビリティ・レポートとは「持続可能性」の意味です。企業の持続可能な発展のためには、企業利益の追求のみならず、環境との調和や社会性への配慮が必要です。そして、企業を取り巻くすべての人々との信頼関係を維持しつづける必要があります。

※本報告書のデータ開示対象期間は2003年度（2003年3月1日～2004年2月29日）とし、その範囲はローソン単体（本部）及び加盟店の事業活動です。

※皆さまの率直なご意見やアドバイスをいただくために、アンケート用紙を添付しました。本書をご覧になって感じたことやご質問などがありましたらお寄せください。

次回発行予定：2005年6月

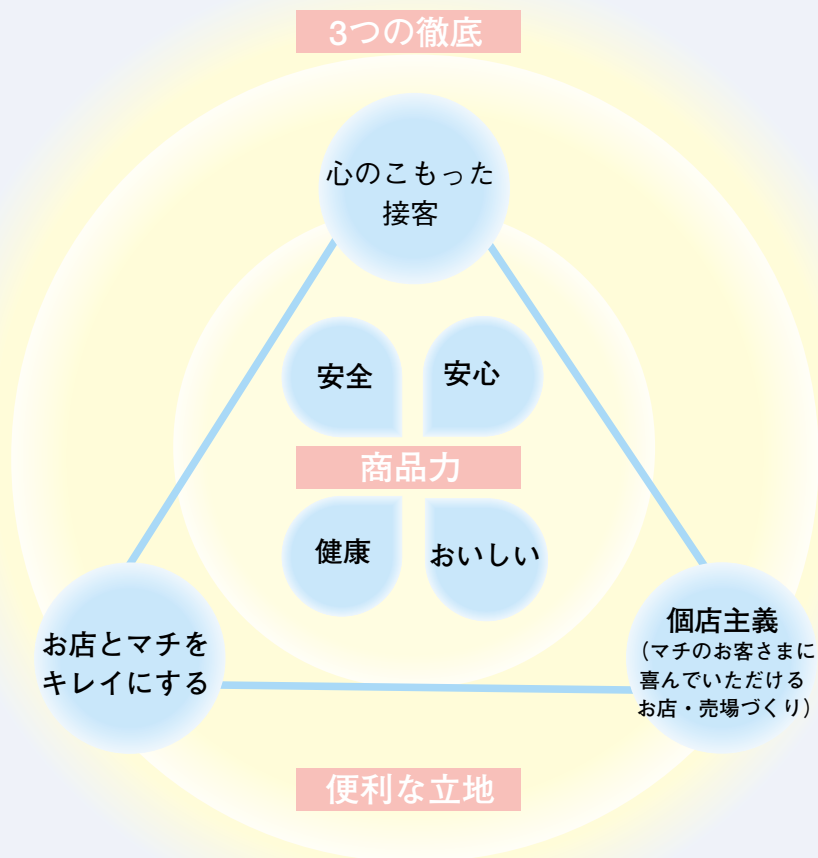


私たちは『3つの徹底』を掲げ、社員、オーナーさん、クルーさんが一丸となって、「お客さま重視」の企業活動を実践します

ローソンという企業の持続的な発展には、どんなときもお客さまの支持を得ることが不可欠です。そのために、私たちは『3つの徹底』を掲げ、社員、オーナーさん、クルーさんが一丸となって、「お客さま重視」の企業活動を実践します。

ローソンのCS (お客さま満足)

「マチのほっとステーション」の実現に向け「マチのお客さまに喜んでいただけるお店・売場づくり (個店主義)」を心がけています。そして、お客さまに気持ちよくご来店いただくために常に「お店とマチをきれいにする」「心のこもった接客」を実践しています。ローソンは、お客さま満足を高めるため「3つの徹底」を継続しています。そして、「商品力」の強化を目指し、「安全、安心、健康、おいしい」というスローガンのもと、弁当、惣菜、調理麺、ベーカリー類などのオリジナル商品を開発・提供しています。とくに、品質管理を徹底するとともに食品添加物の総量削減などによって、お客さまに「安全・安心」をお届けしています。あわせて、便利な店舗立地への出店に注力しています。郵便局内、地下鉄駅構内、ガソリンスタンドなどとの併設、病院内出店など新たな立地の開拓を行うことで、お客さまの利便性の更なる向上を図っています。



$$\text{ローソンのCS} = \text{「商品力」} + \text{「3つの徹底」} + \text{「便利な立地」}$$

社会に認められ貢献できる企業であるために努力してまいります

ローソンは、社会とともに発展しつづける企業であるために、健全な経営を目指し、真摯に取り組んでいます。

コーポレートガバナンス

私たちは、お客さまや地域の皆さま、株主の皆さまなど、ローソンを取り巻くすべての方々の期待に応える企業活動を目指します。社員が一丸となって、コンビニエンス

ストアのフランチャイズビジネスに真摯に取り組むとともに、皆さまのご意見ご要望に耳を傾け、相互のコミュニケーションを大切にまいります。

企業情報の公開

お客さまをはじめすべての方々に、ローソンの経営状況や事業展開を知ってもらうために、わかりやすく正確な経営数値の提供に努めています。また、ローソンをより

深く理解してもらうことと、皆さまの期待に応えることを目指し、ホームページなどを通じて随時、経営理念や事業方針などをお伝えしています。

倫理観を持った組織

「マチのほっとステーション」を目指す私たちは、社会に認められ、受け入れられる企業であり続けるために、良識と社会的使命を持って事業に取り組んでいます。

ローソンを取り巻くすべての皆さまが、幸せで豊かな生活を送れるように努力してまいります。

コンプライアンス（法令遵守）体制、個人情報保護の強化

ローソンでは、誠実な企業市民として関係法令を遵守し、適正な企業活動を行っていくため、コンプライアンス（法令遵守）および情報セキュリティの体制を強化しています。

昨年、おにぎりにおいて表示とは異なる原材料を使用した問題やローソンパス会員カードの顧客情報流出という問題が発生し、お客さまをはじめみなさまに大変ご迷惑をおかけしました。二度とこのようなことが発生しないよう、ローソンではコンプライアンス（法令遵守）や情報セキュリティの体制を強化し、オーナーさんへの啓発と全従業員への教育・研修を徹底しています。

コンプライアンス

全従業員を対象に、関係法令の知識を深める研修を実施。企業倫理担当役員を任命し、定例会議を開催して、コンプライアンス体制強化の施策について検討を行いながら、その実施と進捗管理を行っています。また、全従業員への周知徹底のために年1回、全従業員を対象にした研修を行うとともにコンプライアンスハンドブックを配布し、担当業務に関係する法令知識を習得しています。さらに全国の7支社でコンプライアンス責任者を任命し、支社段階での法令遵守体制の強化と、店舗の経営指導を行う際に関わる法令教育を行っています。

個人情報保護

個人情報を取り扱う際の規定を厳格化

情報セキュリティ体制については、社長を委員長とする「個人情報保護委員会」を設置し、店頭を含むあらゆる個人情報保護施策を推進しています。店舗における個人情報の取り扱いおよび情報を廃棄する際の規定を厳格化するとともに、個人情報保護に関する社内規定を制定し、厳格に運用しています。さらに従業員に対する教育や個人情報に関する内部監査を定期的実施しています。

ローソンに関わる皆さまとの日常的なコミュニケーションを 実践しています

お客さま、オーナーさん、お取引先、職場の仲間、投資家、地域社会。私たちローソンのすべての企業活動は、皆さまとの信頼関係の上に成り立っています。そのため、お客さまの声に耳を傾けて実現可能性を探ること、パートナーであるオーナーさん、および共存共栄の立場にあるお取引先との契約および約束事を遵守すること、職場では一人ひとりが主体性を発揮しながらお互いを尊重すること、これらのことを常に心がけています。皆さまとの十分なコミュニケーションをはかりながら、私たちの最高の目的であるお客さまの満足を追求していきます。



お客さまとの関わり
お客さまのご意見に耳を傾けます。



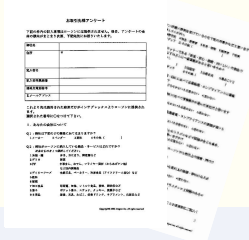
オーナーさんとの打合せ
より良い店をつくるため、オーナーさん一人ひとりと向きあって経営のアドバイスを行います。



自由闊達な議論ができる場づくり
さまざまな会議を通じて社員一人ひとりが主体性を発揮し、風通しのよい職場をつくります。

お取引先アンケート

お取引先との信頼関係構築のため、370社を対象に、ローソンとの取引に関するアンケートを実施しました。無理な値引き要求や不正行為の有無など、多角的に聞いています。調査は専門の調査会社が担当し、公正な結果が得られるように工夫しました。



近隣説明会

新規に出店するときは、必ず町内会などの地域にお住まいの皆さまに、ローソンがどんなお店かを説明します。

ていただくために定期的に説明会を行っています。また、ホームページ等を通じて情報公開しています。

アナリスト、機関投資家への説明会

アナリスト、機関投資家の皆さまにローソンの経営状況を知



オーナーさんとの情報や理念の共有

「マチのほっとステーション」実現に向けて、ローソンの企業理念、企業倫理、経営方針や、商品の動向などの情報を共有しつづけることが不可欠です。スーパーバイザー（店舗経営指導員）が店舗を訪問して行う経営指導のほかに、ローソン本部主催のセミナーや勉強会を行っています。

●ローソンセミナー

毎年2回、全国8カ所にてオーナーさんや店長さん、クルーさんへ半期の経営方針を発表する場として「ローソンセミナー」を開催しています。ローソンチェーンが今後どのような店づくりを目指し、どのような商品を品ぞろえしていくのかを実物の新商品で確認し、具体的に検討します。会場ではオーナーさんとスーパーバイザーが真剣に各店舗の取り組みや施策を考え、ローソンの理念を共有していく場となっています。

●支社セミナー、オーナー勉強会

接客や店舗運営、商品知識などの勉強会を定期的に行い、オーナーさんを継続的に支援しています。



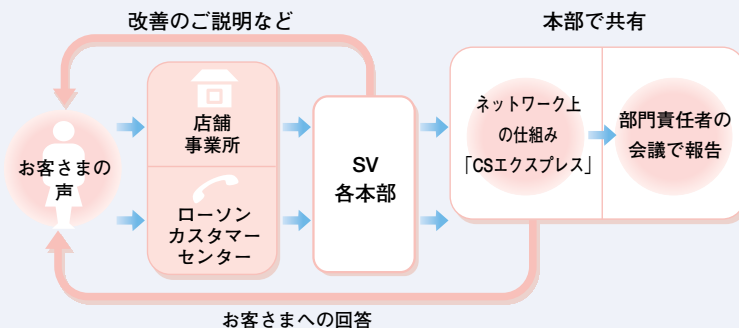
お客様の声が私たちの財産です

お客様からのお問い合わせやご提案、ご意見、苦情（クレーム）は、全国の店舗や事業所で承るほか、専用の相談窓口「ローソンカスタマーセンター」にて365日対応で、電話およびEメールで承っています。ご意見をいただいたお客様へはそれぞれの関連部署が迅速に誠意を持って対応すると同時に、ローソン本部のネットワーク上の仕組み「CSエクスプレス」を通じて全社で問題を共有し、改善に結びつける取り組みを推進しています。



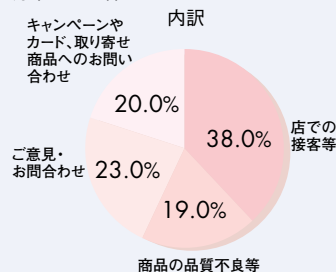
ローソンの店舗や商品へのお問い合わせ、ご意見を年中無休で承っています。

お客様の声を聞く仕組み



窓口に寄せられたお客様の声

- ・2003年3月から2004年2月まで入電総件数11,547件
- ・1ヶ月平均962件



お客様の声を活かし、ローソンパスの利用明細のお知らせを環境配慮タイプの封筒に順次変更しています。

様々な社内コミュニケーション手段

私たちローソンは、オーナーさん、店長さん、クルーさんとの円滑なコミュニケーションを図るために、様々な意見交換のためのツールを用意しています。

社長直行便

オーナーさんや店長さん、クルーさんが日頃考えている意見やアイデアなどを社長直行便に記入し、社長に直接提案することができます。現在は、月間70～100件の提案が寄せられており、その一つひとつに社長から直接回答しています。



オーナーさんや社員のコミュニケーション誌『Pal』『行け★ローソン号』。Palは月1回、行け★ローソン号は年4回発行しています。また、本社の営業施策に関して「売場づくりのご提案」という冊子も発行しています。

SVほっとライン

社内イントラネット上でスーパーバイザー（店舗経営指導員）が、専門的知識を必要とするときに、本社のスタッフに直接質問し、回答をもらえる仕組みです。

LAWSON'S 提案広場

社内イントラネットに設けられた社員の意見交換の場です。お客様によりよいサービスを提供するために、社員が自由に意見や改善提案を投稿し、それに対して担当部署は必ず改善策を回答します。意見交換だけに終わらせずに、実際のサービスに生かしていく仕組みです。

企業情報の提供

ローソンの現状やこれからの展開を皆さまによりわかりやすく理解していただくために、次のようなコミュニケーションツールで情報をお届けしています。



- 主な発刊物
 アニュアルレポート
 環境報告書
 事業報告書（Value Book）



環境広告（新聞全国紙）



テレビCM



ホームページ
<http://www.lawson.co.jp/>

チャレンジングなプロ集団を育成するローソン大学

社会環境が目まぐるしく変化していく中で、お客さまへの最高の満足を提供しつづけるには、社員一人ひとりの意識や行動の変革が欠かせません。そこでローソンでは、社員育成体系を全面的に見直し、新たに「ローソン大学」と名づけた教育研修プログラムをスタートしました。ローソン大学は、「真」のマチのほっとステーションを実現するために、企業理念と高いCS意識が定着し、高い業務推進能力を併せもつチャレンジングなプロ集団の育成を目指しています。

従来のビジネスパーソンとしての基本スキル、および職種別の専門スキルを育成する教育・研修に加えて、全社員を対象に、お客さま重視の意識の醸成と自由闊達な職場環境を築く「CSセッション」を開始しました。またリーダー層へは、経営的視点を持って業務遂行する能力を体系立てて身につける「リーダー教育」を導入しました。すべての職層の社員の能力を最大限に引き出し、組織としての相乗効果を生み出してまいります。

ローソンの求める人材

企業理念と戦略を共有し
成果を出せる人

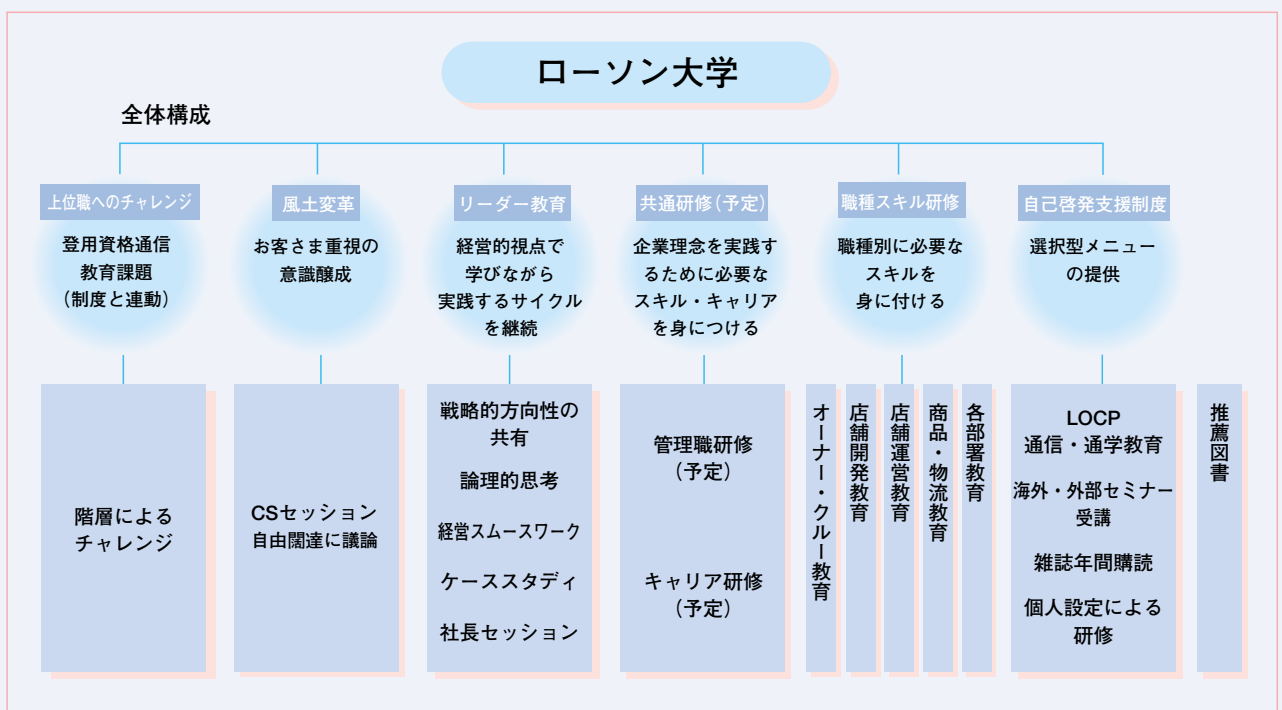


ローソンの求める企業風土

CSをすべての判断基準とし
自由闊達に意見を
言える風土

チャレンジングなプロ集団を育成

「真」のマチのほっとステーションの実現」



CSセッション

生き生きと楽しく働くこと、お客さまのために自分は何をするかを考えること、この2点をテーマに講師と

の双方向コミュニケーションやグループディスカッションを通じて気づきを得るセミナーを実施しています。



リーダー教育

管理職が企業理念と経営戦略の整合性を理解した上で、自分の部署がどのような役割を担っているかを認識し、自ら戦略を立てて業務を遂行する能力を身につけるための研修です。



職種スキル研修

店舗の運営を担うオーナーさんとクルーさんの研修や、店舗開発、スーパーバイザー、物流などの各部門の

研修など、職種ごとに必要なスキルを身につける研修です。



●オーナー研修

ローソン店舗の開業に先立ち、店舗の経営、運営、商品知識など必要な知識を学びます。集合研修の後、店舗でのOJT研修を経て、自分の店舗の運営が始まります。

●リーダークルー研修

店舗クルーのリーダーを務める人を対象とした研修です。商品の陳列などの店舗運営や、挨拶、お客さまへの対応など、自分自身のスキルアップと、クルーに指導するスキルを学びます。

自己啓発支援制度

業務遂行に関わる研修のみならず、社員一人ひとりがビジネスパーソンとしてのスキルを高めることを目的に、通信教育や外部セミナーの受講など自己啓発の実践を支援しています。



●オーナーさんをサポートする仕組み●

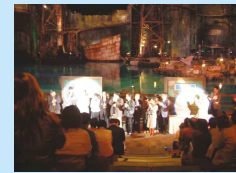
オーナー福祉会

「ゆとり・健康・安心」を理念に、オーナーさん、ご家族、社員、クルーさんに対する福祉の向上を図っています。保養施設やスポーツクラブ、通信教育、セミナー、健康管理、慶弔見舞金、ローン、保険など、多彩なメニューを取り扱っています。



オーナーシンポジウム

年に1回、功績のあった全国のオーナーさん御夫妻を招待し、慰労する催しです。オーナーさんの努力と工夫を讃えます。2003年は、ユニバーサルスタジオジャパンにて開催しました。



生き生きと働ける職場づくり



ローソンという会社を構成しているのは、一人ひとりの社員です。すべての社員が存分に力を発揮して自己実現できるように、快適で公正な職場環境や人事制度を整えることは、会社の責務です。

●職場環境

雇用や昇進において、宗教や信条、性別、出身地など、本人の能力とは関わりない要素による差別は一切しません。すべての社員が生き生きと働けるように、お互いを尊重し高めあう風土や、快適な執務環境を整えてまいります。

●人事制度

社員の能力を引き出し高める研修制度、能力や実績を公正に評価する評価制度、ライフスタイルを尊重し支援する勤務形態など、制度面のバックアップを行います。特に、社員の豊かな生活の実現を願い、育児や介護の休業・時短勤務の制度の充実を図っています。

●福利厚生

豊かなアイデアは、豊かな生活から生まれます。余暇、健康、自己啓発、ライフステージに応じた様々な支援など、福利厚生制度を充実させています。ローソンの福利厚生の理念は、「ゆとり・健康・安心」です。

47全都道府県に展開するローソンのお店

私たちは、コンビニエンスストア「ローソン」のフランチャイズチェーンを展開する企業です。1975年の第一号店開店以来、ローソンの店舗は全国に広がり、今では、47都道府県すべてに展開しています。

ローソン店舗数

全国 **7,821** 店舗 (2004年2月末現在)

FC比率 **95.5** %

中四国ローソン支社 827店舗

鳥取 ……59店舗
島根 ……56店舗
岡山 ……111店舗
広島 ……115店舗
山口 ……108店舗
徳島 ……104店舗
香川 ……96店舗
愛媛 ……130店舗
高知 ……48店舗

九州ローソン支社 900店舗

福岡 ……278店舗
佐賀 ……56店舗
長崎 ……81店舗
熊本 ……80店舗
大分 ……103店舗
宮崎 ……80店舗
鹿児島 ……107店舗
沖縄 ……115店舗



中国
上海
中国上海市146店舗
(2003年12月末現在)

近畿ローソン支社 1,756店舗

滋賀 ……109店舗
京都 ……170店舗
大阪 ……814店舗
兵庫 ……454店舗
奈良 ……100店舗
和歌山 ……109店舗

中部ローソン支社 1,071店舗

山梨 ……62店舗
長野 ……140店舗
静岡 ……160店舗
愛知 ……335店舗
岐阜 ……78店舗
三重 ……72店舗
富山 ……89店舗
石川 ……63店舗
福井 ……72店舗

北海道ローソン支社 485店舗

東北ローソン支社 646店舗

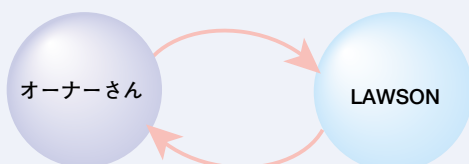
青森 ……117店舗
岩手 ……100店舗
宮城 ……158店舗
秋田 ……109店舗
山形 ……55店舗
福島 ……107店舗

関東ローソン支社 2,136店舗

新潟 ……108店舗
茨城 ……107店舗
栃木 ……94店舗
群馬 ……65店舗
埼玉 ……288店舗
千葉 ……259店舗
東京 ……752店舗
神奈川 ……463店舗

ローソンが展開するコンビニエンスストア

— フランチャイズシステム —

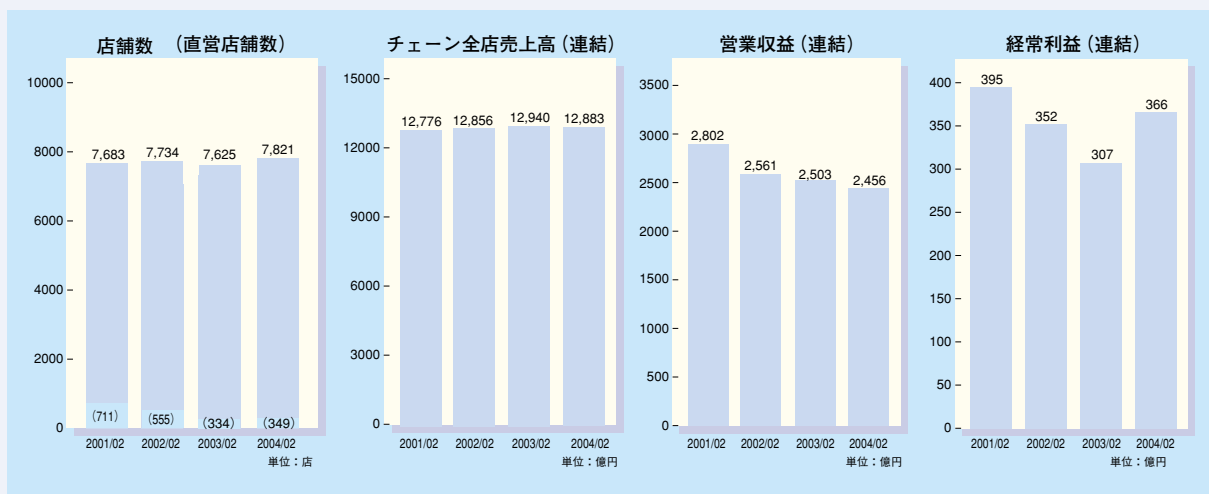


ローソンはフランチャイズ・ビジネスを営む企業として、加盟店のオーナーさんと本部が対等の立場で役割分担をしながら共同事業に取り組んでいます。本部は店舗づくりや商品の開発、情報システムなどを提供し、オーナーさんが店舗の運営に専念できるようにバックアップ体制を整えています。中でもオーナーさんと本部の掛け橋であるスーパーバイザー（店舗経営指導員）は、オーナーさんとの密接なコミュニケーションを通じて強い信頼関係を構築し、オーナーさんと協力して地域社会になくてはならない「マチのほっとステーション」の実現に努めています。



会社概要

社名	株式会社ローソン
所在地	東京本社／東京都品川区大崎一丁目11番2号 ゲートシティ大崎イーストタワー 大阪本社／大阪府吹田市豊津町9番1号
代表者	代表取締役 社長執行役員 新浪 剛史
設立	1975年4月15日
資本金	585億664万4千円
社員数	3,148人
店舗数	7,821店（国内のみ）
出店エリア	国内47都道府県・中国上海市（合併）
市場	東証1部、大証1部



ローソンネットワーク

株式会社ローソンチケット

ローソン店舗内のマルチメディア端末「Loppi」を中心に、音楽コンサートおよびスポーツ、映画などのチケット販売を行っています。

上海華聯羅森有限公司

中華人民共和国上海市において、ローソン店舗のチェーン展開を行っています。

株式会社アイ・コンビニエンス

iモードの公式サイト「iLAWSON」を展開し、物販・サービス・情報の提供などを行っています。

株式会社ローソン・エイティエム・ネットワークス

ローソン店舗における共同ATMの設置、管理および運用に関する業務や、入出金・振込みなどの共同ATM網を利用した提携金融機関の金融サービスに係る事務受託などを行っています。

株式会社ローソン・シーエス・カード

ローソン顧客向けクレジットカード「LAWSON PASS」を発行し、「Loppi」などの各種インフラを通じて、カードサービスを提供しています。

地球と人にやさしい“マチのほっとステーション” ローソンを目指し 省エネ、環境負荷の削減、環境配慮に取り組んでいます

ペットボトル再利用のユニフォーム

ペット再生糸を使用した、ペット比率50%以上のエコマーク認証ユニフォームです。使用済みのユニフォームは、ボタンやファスナー、ハンガーなどに再び利用することができます。ユニフォームの内側には、エコログマークを使用しています(デザイン・荻田公湖)。



現在、全国のローソンで使用しているユニフォームは、ペットボトルの本数に換算すると **230万7,440本分**に相当します。

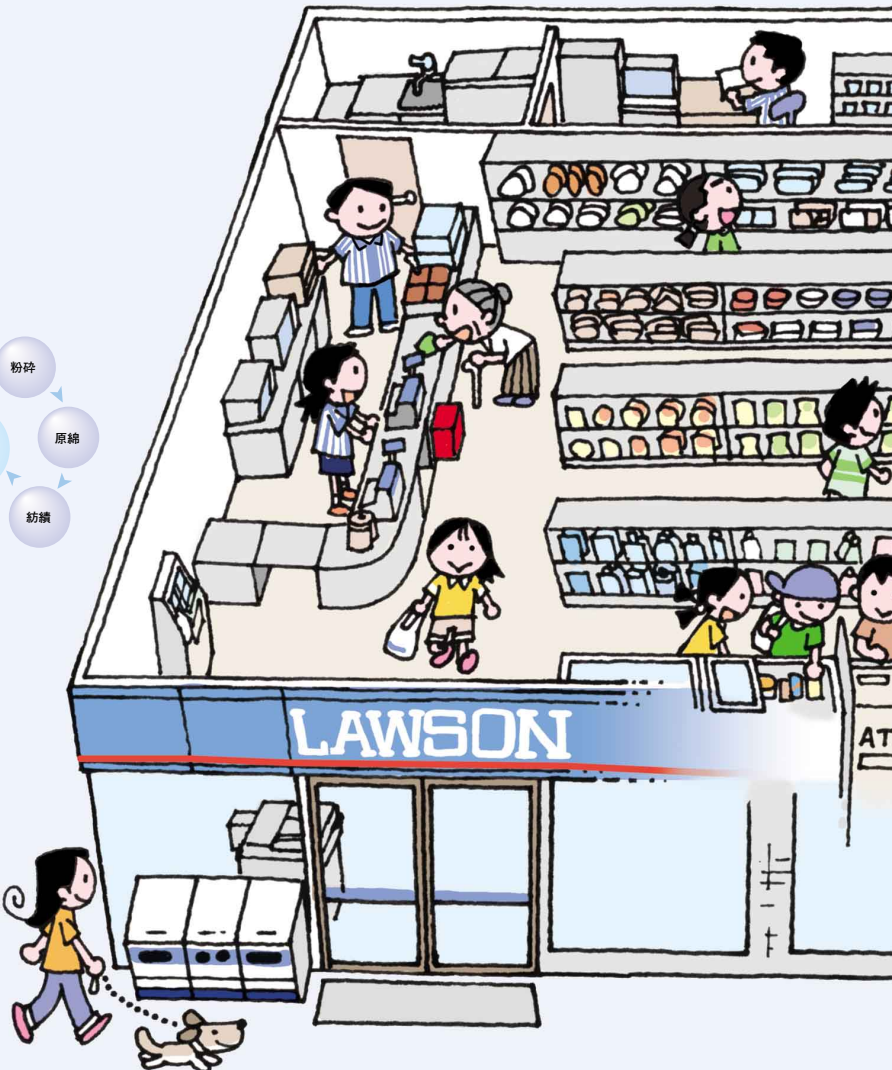
レジ袋使用量の削減

さらなる軽量化と使用枚数削減に取り組み、使用量を抑えています。2003年度は、前年と比べ使用量が約10%減量されました。



環境配慮製品・商品の取り扱い (グリーン購入、エコマーク)

再生紙利用のトイレトペーパー、プラスチック再生利用の事務用品など、環境に配慮した商品を取り扱っています。



店舗看板の蛍光灯削減

店舗看板は、反射板を設置して光を増幅させることで蛍光灯の数を半減し、消費電力量を1/2に削減しています。



建築部材のリサイクル

リサイクルしやすい建築部材を使用し、店舗の改装や閉店のときに出る廃材の量を抑えています。



省エネタイプの什器

店舗に設置している冷蔵、冷凍のショーケースは、省エネルギータイプのものを採用し、消費電力量を削減しています。

断熱フィルム

ガラスに断熱フィルムを貼って、外気の影響で室内の温度が上昇することを防ぎ、冷房効率を大幅にアップさせています。



食品リサイクル法への対応

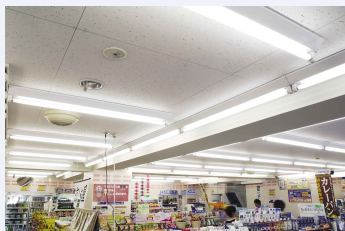
食品廃棄物リサイクルの取り組みは、既に三重県、大阪府吹田市／摂津市、熊本市など一部エリアでリサイクル施設を保有している有力な廃棄物処理取引先さまと協力し、店舗から排出される食品廃棄物をたい肥化などのリサイクルを行い、農家にお譲りしています。また、2003年12月より「全国廃棄物リサイクル推進研究会」を通して、47都道府県の廃棄物処理取引先さまとのネットワークをさらに強化し、全国で循環型食品リサイクルシステムを構築していきます。

その他の取り組み

- ※は一部店舗のみ
- 環境への取り組み
 - ・資源ごみリサイクル
 - ・廃棄物適正処理
 - ・容器包装リサイクル法の義務履行
 - ・容器包装、販促資材の環境配慮
 - ・し尿浄化槽の点検・整備 ※
 - ・リサイクル可能壁材の採用 ※
 - ・太陽光発電装置(実験店) ※
 - ・全熱交換システム(実験店) ※
 - ・氷蓄熱システム(実験店) ※
 - ・車で来店時の協力依頼看板の設置
- 物流対策
 - ・配送用コンテナ(通い箱)利用
- 環境マネジメントシステム
 - 『環境マネジメントシステム(ISO14001)の運用』
 - ・定期審査、内部環境監査の実施

照明調光システム

蛍光灯の照度を1000ルクスに維持して、消費電力を削減しています。さらに窓側の蛍光灯に、太陽光を感知して調光を制御するセンサーを取り付けています。



電圧調整器による省エネ

電力会社から供給される電圧(単相100V)を97Vにコントロールし、消費電力量を6~8%削減しています。



顕熱交換型換気ユニット

1時間2回の換気時に、熱だけを店外に排出する空気交換を行います。熱回収率70%以上で省エネを実現しています。

分別ゴミ回収

ローソン店頭で分別ゴミ箱(可燃物、不燃物、ペットボトル回収)を設置し、街の美化に貢献しています。

省エネリモコン

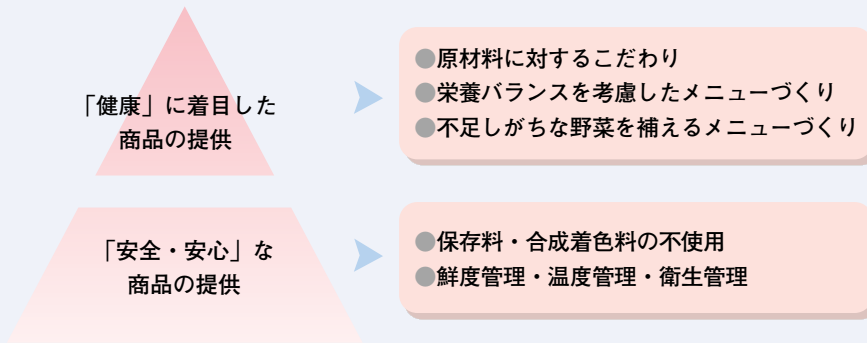
エアコンが規定温度以外の冷やしすぎや暖めすぎになった時、自動的に規定温度まで戻します。“つけっぱなし”を防ぎ、消費電力を削減しています。

トイレのセンサー

店舗のトイレの照明に「人感センサー」をとりつけ、電気の「つけっぱなし」を防いでいます。手洗いは自動水栓にして、節水を実現しています。

「安全・安心・健康」で「おいしい」商品をお客さまにお届けします

近年、急速に食品への不信や不安が高まっています。「安全・安心」な食品を提供することと、「健康」に対するニーズに応えることは、私たちローソンが果たさなければいけない大切な責任のひとつです。安全・安心・健康、そして「おいしい」商品をお客さまに届けるために、本部と店舗が一体となって取り組んでいます。



安全

「安全」な商品の提供

オリジナル商品については、合成着色料は使用していません。また、首都圏、近畿地区、東海地区など一部の地域では保存料も使用していません。そして今後もこの取り組みを全国へ広がっていきます。

● 内容

・人体に害を及ぼす要素を含まない商品

● ポイント

- ・環境、安全衛生関連法規制を遵守して製造されている
- ・PL問題を未然に防ぐ、徹底した品質管理を行っている
- ・賞味期間内の品質が確実に保たれている

安心

徹底した品質管理体制

オリジナル商品の開発から、製造、お客さまに届くまでのすべての過程における品質を保つために、2003年9月に品質管理本部を新設し、仕入時における原材料管理から製造時における生産管理、製造委託工場への指導、店舗における衛生管理まで、厳格な品質管理を行っています。

● 内容

- ・お客さまが不安を感じないで購入できる商品
- ・お客さまが信頼感を持って購入できる商品

● ポイント

- ・環境への配慮が施されている
- ・環境ホルモンなどの化学物質、有害物質を含まない

健康

「健康」に着目した商品の提供

お客さまの「健康」に対するニーズはますます高まっています。ローソンは、原材料へのこだわりから、栄養バランスを考慮したメニューづくり、不足しがちな野菜を補えるメニューづくりを行うなど、コンビニエンスストアから新たな「食」を提案していきます。

● 内容

・化学汚染が一切ない、有機農法によるヘルシー素材を用いた商品

● ポイント

- ・減農薬野菜の使用等



ローソン ナチュラルプロジェクト宣言



1. オリジナル商品には、保存料を使用していません。
2. オリジナル商品には、合成着色料を使用していません。
3. オリジナル商品の、食品添加物削減に取り組んでいます。

すでに、おにぎりをはじめとしたローソンオリジナル商品約150品目では、保存料及び合成着色料を使用していません（対象地区＝首都圏・近畿地区・東海地区）。さらにオリジナル商品の食品添加物については必要最小限に留めております。

注）オリジナル商品＝弁当、おにぎり、寿司、調理パン、惣菜、サラダ、調理麺、パスタ

●保存料・合成着色料の不使用

おにぎり、お弁当などのローソンオリジナル商品約150品目では、保存料と合成着色料を一切使用していません（首都圏、近畿地区、東海地区）。

●食品添加物の削減

保存料と合成着色料を使用しないほかに、製造工程での食品添加物の削減にも取り組んでいます。食品添加物は食品を安全に召し上がっていただくために必要なものですが、ローソンでは、必要最小限の量にとどめるよう取り組んでいます。



●商品発注（仕入）の精度向上で廃棄削減

品切れを起こさないと同時に、売れ残りを減らすために、ローソンでは新しい発注システムを導入して、商品の発注（仕入）をしています。曜日や天候、地域行事など、日ごと時間帯ごとに刻々と変わる売れ行きを把握して、正確に発注することで、品切れと売れ残りを防いでいます。



ストアコンピュータ
店舗の事務室にある発注処理と商品管理のためのシステムです。本部のホストコンピュータと直結し、製造や配送量を調整します。



ダイナミックオーダーターミナル
過去の売れ行き状況や品切れした時間などを確認しながら、適切な商品発注（仕入）ができます。

●「販売許容期限」を自主的に設定

お客さまにより安全な商品を安心してお買い求めいただくために、ローソンではおにぎりやお弁当、惣菜などは自主的に「販売許容期限」を設定しています。店舗では1日3回「販売許容期限」のチェックをしています。

●温度チェック

商品の鮮度と品質を保つため、1日4回以上、店舗のショーケースの温度チェックを行っています。さらに温度管理を徹底するために、外部専門機関の衛生検査員による抜き打ち検査を年1回、全国の店舗で実施しています。



●F F 鮮度管理

F Fとはファーストフードの略で、「からあげクン」をはじめ、コロッケやジャイアントフランクなど、店舗で調理する商品のことで、調理前の商品を保管する冷蔵庫の衛生チェックと温度管理にはじまり、調理では手洗いと調理器具の消毒を徹底し、調理温度や時間、手順などのマニュアルを順守しています。衛生的でおいしい商品を提供するために、品質管理を徹底しています。

徹底した品質管理で「安全・安心・健康」を実現します

ローソンのオリジナル商品は、原材料の厳選にはじまり、お客さまのお手元に届くまでに、数多くのテストや検査を実施しています。自信を持っておすすめする「安全・安心・健康」、そして「おいしい」商品です。

原材料の採用

商品開発の部門に原材料を専門に厳選採用する仕入部署を設置して、安全・安心な商品を供給しています。たとえばハム・ソーセージなどの加工品の場合は、100近い項目からなるローソンの品質管理基準に基づく厳重な審査に合格したものを採用しています。

商品設計から商品化まで

ローソンオリジナル商品で力を入れているのが細菌検査です。商品設計時から具材、完成品とすべての段階で、ローソン独自の検査を実施し、安全性が確保された商品しか発売できない仕組みになっています。商品の仕様が決定した段階で、書類審査を行うとともに実際の製造ラインで商品を試作し、安全性を確認しています。

定期的な品質検査

商品の発売後には月2回、商品を店頭から回収して虐待保存検査を行っています。通常の品質保持の条件より長時間劣悪な環境に置き品質を検査するものです。お客さまが商品をご購入後、私たちの想定以外の状態に置かれることも考え、万全を期すために行っています。月2回（商品によっては月1回）のこの検査は、販売が終了するまで続けられます。



I LOVE ローソンおにぎりプロジェクト

「ローソンのおにぎりはおいしい!」とお客さまに評価していただけるように、様々な部署から選出された十数名の社員が、組織の枠を超えて、おいしいおにぎりの開発に参加しています。このほかにも随時プロジェクトを設け、おいしい商品開発を行っています。





商品情報の表示（サーマルシール）

ローソンではオリジナル商品に、商品名、消費期限、原材料名などを表示したシールを添付し、情報を公開しています。あわせて表記義務のある品目以外にも自主的に詳細な表記をしています。小さなお子さまやアレルギーをお持ちの方も、安心して食べていただけるように配慮しています。表記内容は、品質管理部で厳重にチェックする他、第三者や製造段階でのチェックなど、二重三重の体制でチェックしています。また、カロリー表示は任意ですが、お客さまが必要とされる情報なので、ローソンでは表記しています。



トレーサビリティ

トレーサビリティとは、生産・加工・流通などの各段階で食品とその情報を追跡できることを指します。ローソンオリジナル商品では、どこからの材料をいつ何度で調理したかなど、すべてを記録に残しているため、原材料まで遡って追跡することができます。1つの商品について平均して40～50枚の記録用紙が残っています。

HACCPシステム

HACCPとは、商品の各製造工程で予想される危害について分析し、それを重点的に管理する仕組みです。ローソンでは独自にHACCPの仕組みを立ち上げ、より高度な生産管理を実施しています。工場では加熱や冷却の温度管理を徹底するほか、金属探知機などで異物混入を防止しています。これらの全てについて記録をつけ、いつ誰がその商品を製造したのか、遡れるようにしています。

大阪府立健康センターとの共同開発

食育をスローガンに掲げる大阪府とローソンが協力して、新商品を開発しました。安全・安心・健康をコンセプトに野菜を中心に商品開発した大阪府立健康科学センターとローソンが考えた“お弁当”と“おかず”の2品を、近畿地区のローソンで販売しました。



鮮度・温度・品質の保持に全力を尽くし 皆さまに新鮮な商品をお届けします

「安全・安心・健康」な商品を提供するために、米飯類の製造工場や配送センター、店舗とすべての場所で、工程ごとに詳細に定めた独自の品質管理基準に基づいて、鮮度、温度、品質の管理を徹底しています。

●製造工場の品質管理

原材料の受け入れ



原材料を受け入れる際は、適切な温度状態で管理されて配送された原材料かどうかをチェックします。入荷した原材料は工場内で保管温度、期間、場所等を厳密に管理されます。

温度測定



加熱する温度と時間、冷却装置にかける時間などが細かく定められています。基準以外の温度になることがないように、コンピュータと直結して自動的に記録をとる温度測定の装置を備えた最新鋭の生産加工管理システムを導入しています。

鮮度管理



1日3回の配送に合わせて適切な在庫管理を行うことによって、常に新鮮な原材料を使用できるようにしています。

おにぎりの製造工程



炊飯工程では火力のチェック、配合量のチェックを行う



具を焼く工程（具の温度チェック）



冷却後の温度チェック

取引メーカーの集約

米飯などのオリジナル商品の製造を委託しているメーカーを、40社から6社に集約し、生産工程での品質管理を徹底しました。その結果、商品の品質が安定し、きめ細かい管理体制の効果が表われています。



品質チェック



製造途中の具材や完成品は、どちらも作業工程で抜き取り検査を行い、品質をチェックしています。

衛生管理



工場の中は常に清潔に保たれています。従業員の健康管理や衛生指導、毎日の消毒も徹底し、清潔な状態で製造されます。

配送センター
温度管理



新鮮な商品を正確・迅速にお届けするために、配送センターでは、作業手順や衛生基準が細かく規定されています。入荷から出荷までの仕分けや積み込みなどの作業は、所定の温度や時間が守られるよう、決められた作業手順に基づき効率的に行われます。配送センターの衛生管理、配送車両の温度の管理も徹底しています。また、店舗への配送車両には運行管理システムを搭載し、温度と配送速度、店着時間などを自動的に記録しています。入荷から店舗への納品まで、保存状態をしっかりと管理しています。



おにぎり成型工程。具材の量や見栄えをチェック



金属探知器での異物混入のチェック



配送センター内の温度チェック



おにぎりの出荷



商品の積み出し

3種類の配送センターから、 最適な温度で商品を迅速に配送します

商品はお取引先から配送センターに入荷すると、配送センターで店舗ごとに仕分けられて配送されます。配送センターの集約と一括配送の徹底によって輸送の効率を高めています。

チルド商品の配送では、1台の車輻に間仕切りをして2つの異なる温度帯の商品を運ぶことができる「二室式二温度帯管理車輻」を使い、牛乳など10℃以下の商品と、米飯など20℃の商品を同時に配送しています。

配送センターの役割

入荷・出荷時の検品機能

入荷した商品は、入荷日や出荷期限などの情報を管理して保管されます。この情報に基づき出荷時には、期限切れの商品が誤って配送されることがないように、コンピュータや専用の台帳による検品を行っています。

米飯類と乳製品・デザート等の商品は、センターに保管することなく、メーカーや工場から入荷するとすぐに仕分けられて店舗に配送されます。

衛生管理

配送センター内は常に清潔に保たれています。従業員の健康管理やセンター内での衛生基準の遵守も徹底しています。

米飯類と乳製品・デザート等の商品配送に使用するコンテナを毎日洗浄を行い、衛生管理には万全を期しています。

作業手順

入荷から出荷までの仕分けや積み込みなどの一連の作業は、所定の温度や時間が守られるように、決められた作業手順に基づき効率的に行われています。

温度帯物流

配送する商品の温度によって、3種類の配送センターがあります。各センターから、商品を最適な温度に維持しながら迅速・適正に配送しています。

●常温商品（菓子類や調味料などの加工食品）

DDC (Dry Distribution Center)

常温商品を取り扱う共同配送物流基地。一部チョコレート商品は温度管理して納品しています。

●チルド商品（米飯類、乳製品、デザート等）

CDC (Chilled Distribution Center)

品質保証期限が短い米飯類（20℃管理）と乳製品・デザート等（10℃以下管理）の商品を取り扱う共同配送物流基地。1日に3回店舗にお届けしています。

●冷凍食品

FDC (Frozen Distribution Center)

冷凍（-22℃以下管理）食品を専門に取り扱う物流基地。

配送時の温度管理

配送時、チルド商品を配送する車輻の運転席に設置した温度計で庫内の温度を常にチェックし、規定の温度をオーバーするような異常が起きた場合はすぐにドライバーからセンターに連絡が入るようになっていました。また、各車輻には品温計も設置しており、異常があった場合には温度を測れる体制にしています。



運行管理システム

すべての配送車に最新鋭のコンピュータシステムを搭載し、店舗への定時配送、商品の温度管理を徹底しています。これは移動体通信網を利用し、配送車輻情報を本部およびセンターが集中管理する仕組みで、配送車の温度状況、運行ルート、所要時間、店舗での滞在時間およびそのと

きにエンジンを切っていたかどうかまで、あらゆるデータを本部で迅速に把握することができます。運行管理システムによる定時配送、温度管理の徹底は、品質管理の上で役立つだけでなく、無駄な走行やアイドリングを防ぎ、環境負荷の低減にも貢献しています。



共同配送の推進や低公害車の導入で環境負荷を低減します



共同配送の推進による車輛削減

常温商品の物流では従来の中継基地を新型の物流基地にすることで、全国14カ所のセンターを削減しました。その結果、配送車輛325台を削減することができました。



車輛台数の低減

共同配送の取り組みにより、1店舗に到着する納品車輛の台数を、1日あたり平均7.6台にまで減らすことができました。ローソンは、コンビニエンスストア業界で最も削減が進んでおり、7.6台は業界最高水準です。今後、さらなる削減を目指して改善を進めていきます。

トラックの台数
1日あたり平均



配送時の環境配慮・消音への取り組み

- 消音手押し台車の導入
手押し台車の金属製キャスターを金属製からオール樹脂製に改良する方法で、消音台車を開発しました。2002年2月末までにチルド商品、冷凍商品配送車全車に導入し、継続して消音に努めています。
- 消音ラッシングベルトの開発
常温商品配送車輛の内部にラッシング（締上げ用）ベルトを使用しております。ローソンでは、ベルトを解除するバックルを改良した消音ラッシング（締上げ用）ベルトを開発しました。2002年2月末より全車に導入し、消音を心がけています。
- 消音カーゴ台車の導入推進
カーゴ台車の金属パイプの共鳴音に対し、金属パイプを2重構造に改良することにより、消音カーゴ台車を開発。2003年度の導入台数は2500台になります。

低公害配送車の導入

1997年には低公害の天然ガス配送車を業界で初めて導入し、2003年度は、累計で67台に達しました。今後は、次世代の低公害配送車として天然ガス配送車より環境負荷が少なく、かつ広域配送に適したハイブリッド車の導入を推進していきます。



排ガス規制

東京都をはじめ、排出ガスを制限する条例が各自治体で施行されています。ローソンでは、すべての自治体、すべての車輛で規制をクリアしています。

アイドリングストップ

配送車すべてに運行管理システムを搭載し、アイドリングストップを徹底しました。さらにドライバーはキーロープを付け、キーを抜かないと配送車から降りられない仕組みになっています。



ドライバーズマナーキャンペーン

店舗のクルーと同様に、配送ドライバーもローソンの顔です。年2回、「ドライバーズマナーキャンペーン」を実施して、マナーの向上に努めています。交通法規や運転マナーの厳守、お客さまへの挨拶の徹底、身だしなみなどのもと、アイドリングストップの徹底や、騒音の防止など環境に配慮した行動も徹底しています。



ローソンでは、「安全・安心・健康」のコンセプトに基づき、容器包装における環境負荷の軽減と有害物質の排除に取り組んでいます

安全・安心・健康な容器包装

安全

- ・環境、安全衛生関連法規制を遵守しています。
- ・品質管理を徹底し、容器包装が原因となるトラブルを発生させないよう努力しています。
- ・内容物の品質を劣化させない長期保存性を実現しています。

安心

- ・環境負荷が大きい原料の使用や生産・加工、物流をしていません。
- ・原材料に環境ホルモンなどの化学物質を含むものを使用していません。
- ・生産・加工の工程で有害な化学物質を使用していません。

健康

- ・ユニバーサルデザインを採用し、高齢者や身体障害者への配慮を行っています。
- ・健康食品・自然食品のおいしさを損なわないよう加工調理を行っています。



●ダイオキシン

現在、オリジナル商品（米飯・惣菜等）の容器包装の非塩ビ化は既に完了し、焼却時にダイオキシン類が発生しないようにしました。

●環境ホルモン

環境ホルモンについては、溶出の疑いのある素材を極力使用しないよう素材の切り替えを進めています。

●容器包装

容器包装の製造過程においても、有害化学物質が発生しないよう、原材料や設備の改善に取り組んでいます。

●生分解性プラスチック

「安全・安心・健康」をさらに進めるため、容器包装を、非石油（植物由来＝バイオマス）原料や微生物によって水と炭酸ガスに分解される生分解性プラスチックへ切り替えることも検討しています。

レジ袋使用量の削減

ローソンではレジ袋の軽量化に取り組んでいます。2003年11月に導入した新しいタイプのレジ袋では、1袋あたり平均0.38グラム軽量化しました。2003年度のレジ袋使用重量は、軽量化と1店当たりの使用枚数の削減により、前年度と比べ約10%減量しました。同時にレジ袋削減キャンペーンにも取り組んでいます。

レジ袋は、焼却しても塩素等の有害ガスが発生しない素材を使用しています。



●レジ袋使用量

2003年度

19億7,532万枚
614万8,203kg

●1店あたり使用枚数

2002年度

2003年度

25万6千枚 → **25万3千枚**
(▲1.2%削減)

●1袋あたり重量 ▲**0.38 g**

●レジ袋全体で
CO₂排出量 ▲**104万1,250kg-CO₂**

環境配慮素材の特徴・使用商品

軽量ポリプロピレン(PP) フィラー入りシート

現状の特性を維持しながら、フィラー（無機物）の含有量を軽減化することにより、廃棄物量とフィラー焼却灰の軽減を図った素材。《弁当・惣菜類の容器》

ポリエチレンテレフタレート(PET) シート

成形工場で成形時に出る抜きカスを再生使用することにより、使用樹脂量の有効活用を図った素材。《サラダ類・冷し麺類の容器》

単層発泡ポリプロピレン(PP) シート

ポリプロピレン(PP)を発泡させ使用することにより、使用樹脂量の減少化を図り、かつ断熱効果を付加した素材。《弁当の容器》

透明ポリプロピレン(PP) シート

従来のOPS（二軸延伸ポリスチレン）の代替品として、耐熱性、耐油性に優れ、かつ透明性を改善した素材。《弁当・惣菜類のフタ》

紙製容器

従来の化学的な素材に替わるものとして、リサイクル可能な紙容器を開発。耐水性、耐油性の課題を克服。《惣菜・ホット麺容器》

廃棄物の実態を定期的に調査し、 廃棄物の排出量削減とリサイクルの推進を目指しています

店舗の廃棄物実態調査

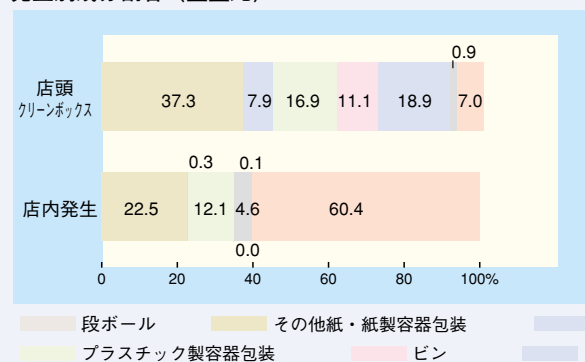
ローソンでは毎年、店舗廃棄物の実態調査を実施しています。店舗内部発生分と店舗外発生分（店頭に設置したゴミ箱）を区分し、発生場所を明確にして、廃棄物の分量、重量、容量を調査しています。今年度は大分類（4

種類）、中分類（7分類）、小分類（28分類）に細分化し、より正確な実態把握に努めました。調査結果の特徴は以下の通りです。この結果をもとに、廃棄物排出量の削減と資源のリサイクルの推進に取り組んでいきます。

種類	店内		店頭クリーンボックス		合計			
	重量(kg)	容量(ℓ)	重量(kg)	容量(ℓ)	重量(kg)	割合(%)	容量(ℓ)	割合(%)
段ボール	14.74	137.21	0.00	0.00	14.74	35.0	137.21	29.4
その他紙・紙製容器包装	3.90	71.62	3.73	40.79	7.63	18.1	112.41	24.1
ペットボトル	0.04	0.98	0.80	18.52	0.84	2.0	19.50	4.2
プラスチック製容器包装	2.11	67.75	1.69	66.89	3.80	9.0	134.64	28.9
ビン	0.00	0.02	1.11	2.53	1.11	2.6	2.55	0.5
カン	0.01	0.18	1.90	24.25	1.91	4.5	24.43	5.2
雑芥類	0.79	1.45	0.09	0.47	0.89	2.1	1.92	0.4
食品残渣	10.48	31.78	0.70	2.13	11.19	26.6	33.90	7.3
合計	32.09	310.97	10.02	155.58	42.10		466.55	

※調査は、2004年2月広島市内のローソン6店舗で実施

発生別成分割合（重量比）



排出量比較（2002年・2003年）



店舗廃棄物の実態調査は、廃棄物の排出量の削減とリサイクルの推進に向けたデータを把握するために行っています。今回実施した調査では、1日1店舗あたり（重量ベース）で店内から発生する廃棄物が32.09kg（76.2%）、店頭のゴミ箱に投棄される廃棄物が10.02kg（23.8%）出ていることがわかりました。店内の廃棄物では商品を梱包する段ボールと賞味期限切れの食品残渣が多くを占めており、ローソンとしても食品リサイクルの推進が不可欠であると認識し、現在、食品リサイクルシステムの構築をめざし実験を行っています。また、店頭ゴミ箱に投棄される廃棄物では店舗外からの持ち込みゴミが増えており、ローソンとしてお客さまに対し、廃棄物の削減にご協力をお呼びかけなければならぬと考えています。

店舗廃棄物の適法処理

店舗から排出される廃棄物は、事業系一般廃棄物として各市町村の許可を受けた収集処理取引先に委託し、適正な処理を進めています。店舗の改装時や閉鎖時の廃棄物などについては、各都道府県の許可を受けた産業廃棄物処理取引先に適正処理を委託し、マニフェスト伝票によりその確認を行っています。

容器包装リサイクル法への対応

毎年、財団法人日本容器包装リサイクル協会と再商品化委託契約を締結し、再商品化委託料を支払うことにより義務を果たしています。

し尿浄化槽の点検・整備

浄化槽法や各都道府県条例で義務づけられている、し尿浄化槽の点検・整備について、対象店舗は取引先に委託し点検・整備を行っています。



マニフェスト（産業廃棄物管理票）伝票

マニフェストとは、もともと積荷目録の意味ですが、国内では産業廃棄物の処理の流れを把握するための管理票をマニフェストと称しています。

常に新しい環境負荷の低減にチャレンジしています

■環境対策実験店

省エネルギー、省資源、リサイクル、バリアフリーなどコンビニエンスストアとしての総合的な環境対策をテーマに取り組み勝島一丁目店と沼田インター店。自家発電



●太陽光発電（勝島一丁目店／沼田インター店）
店舗の年間照明電力の60%をまかなうことができます。



■順次導入を進めている最新の省エネ・環境配慮システム



●電圧調整器
電力会社から供給される電圧（単相100V）を電圧調整器によって電圧が高い時間帯は下げ、低い時間は本来の電圧にもどすよう自動電圧制御されています。これにより消費電力を6～8%削減します。



●店舗看板の蛍光灯数の削減
店舗看板は、反射板を設置して光りを増幅させることで蛍光灯の数を半減し、消費電力量を1/2に削減しています。

●店内空調での省エネと環境負荷の低減（顕熱交換型換気ユニット）
店内の汚れた空気の排気時に熱だけを回収し、給気された新鮮な空気に効率よく受け渡しする換気ユニットを採用。熱回

の省エネルギー実験店である音更鈴蘭新通店。こうした店舗による実験は、全国の店舗へのシステム導入の第一歩となっています。

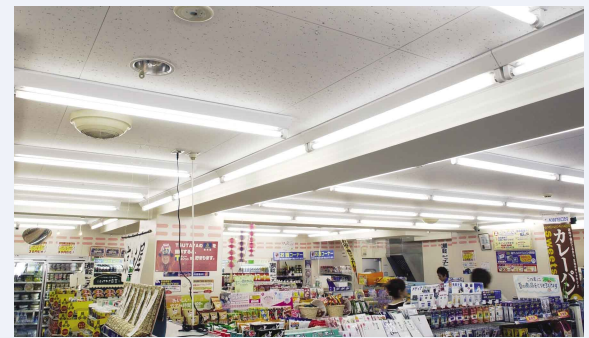


●全熱交換システム（勝島一丁目店／沼田インター店）
熱交換換気扇の使用により、冷・暖熱を外部に排出しないことで空調効率アップを図ります。

●氷蓄熱システム（エコアイス）（勝島一丁目店）
深夜時間帯の余剰電力で氷を作り、昼間に活用することでエネルギーとコストの両方を削減します。

●生ごみ処理機（勝島一丁目店）
生ごみを自然界の水と微量の炭酸ガスに分解し、店舗からのごみの量を減らします。

●灯油式コージェネレーション（音更鈴蘭新通店 写真左）
灯油式発電機で自己発電しています。発電の過程で発生する排熱を、店舗前の融雪のためのロードヒーティングに利用しています。



店内照明の節電

●蛍光灯の照明・照度を1,000ルクスに
通常、蛍光灯は取り付け時には1,700ルクスの明るさがありますが1年後には約1,000ルクスにまで減ります。お店で使用する蛍光灯は照明調光システムで、最初から1,000ルクスに制御しています。

●窓側は太陽光を効率的に利用し節電
窓側には太陽光利用自動調光システムを採用しています。窓側ゾーンは太陽光を効率的に利用し、余分な照度を調光制御するなどして約30%の省エネをしています。

収率70%以上で空調効率をアップして省エネをしています。また、熱を店外に出さないことで、お店の周辺への環境負荷をおさえています。

省エネ、ペーパーレス・・・社員一人ひとりが 環境保全活動・省エネルギーに取り組んでいます

■事業所が取り組む環境保全活動

ローソン本社・各事業所においても社員一人ひとりが環境意識を高め、できることから取り組んでいます。

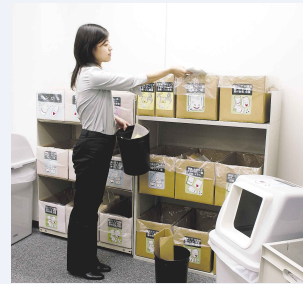
保護(まもる)くん

ローソン東京本社内に設置された事務用帳票の回収ボックスです。完全施錠と回収作業の秘密を保持する体制によって、会社の機密事項は守られながら、リサイクルもできる仕組みになっています。



分別ゴミ回収

東京本社のゴミ箱は、可燃・不燃だけでなく、紙、ビン、カンなど12種類に分かれています。その他の事務所においても社員一人ひとりが高い環境意識を持って、ゴミの分別を行っています。



事業所内ペーパーレス

従来から本社・各事業所で、コピー用紙の削減に努めてまいりましたが、会計システムを変更したことにより、2001年2月から、ローソンの全事業所で会計伝票を電子化しました。紙資源の削減と業務の効率化を実現しています。

店舗と本部間のペーパーレス

従来は週単位で商品が入替わるため、週ごとの商品台帳など、店舗と本部でやりとりする資料が相当な量に上っていました。2002年9月から順次、これらをネットワーク化し、コンピュータで参照できるようになりました。1店舗につき、1ヶ月あたり約1000枚の紙が削減され、大きな効果を生んでいます。

グリーン購入の推進

環境活動に対する意識が定着しており、社員が率先して事務用消耗品やOA機器のグリーン購入(環境に配慮した消耗品の優先購入)を推進しています。



省エネルギー

「省エネルギー取り組みガイドライン」を定め、本社、事業所の照明機器、事務機器、空調機器、OA機器などの電力使用量を削減し、省エネルギーに努めています。

自治体への協力

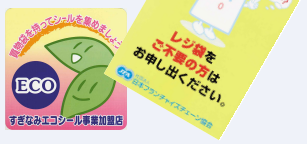
環境にやさしい買い物 キャンペーン参加

2003年10月、全国39の都道府県が参加して行われた「環境にやさしい買い物キャンペーン」に、ローソンも参加しました。これは、「マイバック持参」や「環境に配慮した商品の開発」等を推進するもので、ポスターの掲示やレジでの呼びかけなどに協力しました。



杉並区エコシール事業

杉並区では、レジ袋の削減と商店街の活性化をねらったエコシール事業を行っています。杉並区内のローソン店舗も加盟店として、事業に協力しています。



ペットボトル回収

店舗では、ペットボトル回収ボックスを設置し、自治体(東京23区、さいたま市の一部、相模原市、名古屋市)の回収事業に協力しています。



地域のインフラの役目を果たす私たちは 24時間365日、地域社会に目を配りつづけています

国土交通省「ロード・セーフティステーション」への参加

「ロード・セーフティステーション」は、国土交通省が呼びかけるボランティア活動、「ボランティア・サポート・プログラム」のひとつです。主要国道に面するローソン各店舗が、24時間365日営業の特徴を活かし、国道に異常があった場合に各国道事務所へ連絡する活動です。歩行者および来店されるお客さまが気持ちよく利用できるように、店舗前の歩道や植樹帯の清掃活動も併せて実施しています。「ロード・セーフティステーション」に参加しているのは、次の地区の店舗です。

- 中国地区の106店舗
- 関東地区の24店舗
- 東北地区の135店舗
- 中部地区の59店舗
- 四国地区の128店舗



自治体のボランティア活動に参加

ローソンは和歌山県から県民サービスの向上や県産業の振興への協力要請を受け、地域社会の一員としてさらに社会貢献活動を積極的に推進するため、2003年8月、協定を締結しました。和歌山県内のローソンでは「うめ」「ゆず」「炭」などの県産品の販売をしたほか、「木の国」と呼ばれる和歌山県の良さを県内外にアピールできるよう、紀州材を全面的に使用した木造仕様店舗「ローソン御坊名田町店」を2004年2月13日にオープンしました。また、8月2日、3日の2日間に和歌山県下で行った「道路清掃すたんぷラリー」ではローソン全店舗がごみ回収中継拠点として協力しました。和歌山県のほかにも大阪府や神戸市の地域美化活動に協力しています。

- 大阪府「アドプト・ロード・プログラム」
大阪府の220店舗
- 神戸市「美 in g 神戸市民運動」
神戸市内の137店舗
- 和歌山県「道路清掃すたんぷラリー」
和歌山県の108店舗



和歌山県 木村良樹知事との協定調印式 (2003.8.1)



和歌山県「道路清掃すたんぷラリー」(2003.8.2~3)

JFA「セーフティステーション」に参加

JFA(日本フランチャイズチェーン協会)の「セーフティステーション」は、「まちの安全・安心な生活拠点づくり」を目指す活動です。安心・安全なまちづくりに協力するとともに、青少年の健全育成などに取り組んでいます。自治体や警察の後援を受けてコンビニエンスストアが自主的に取り組んでいる活動で、ローソンも参加しています。



クリーンエイド

周辺の自治体・企業・市民が一体となって取り組む河川や海岸などの美化活動です。ローソンではオーナーさん、店長さんやクルーさんだけでなく、その家族も参加するなど広がりをもった活動となっています。2003年度は全国4カ所で活動しました。



第6回「淀川クリーンエイド」
2003.6.1
参加者161名
約108袋分のごみを回収



第10回「福岡ラブアースクリーンアップ」
2003.6.8
参加者68名(全体1,209名)
約46袋分のごみを回収



第6回「世界の京都・まちの美化市民総行動」
2003.9.21
参加者51名
約50袋分のごみを回収



第10回「荒川クリーンエイド」
2003.11.2
参加者82名
約122袋分のごみを回収

台風14号で大きな被害を受けた宮古島



●台風14号復興義援募金
2003年11月19日、宮古市町村会に124万2405円を贈呈

災害時募金

被害の大きな災害が起きた際には、通常店頭で行っている「ローソン緑の募金」を、期間を限定して救援募金活動に切り替えます。2003年度ローソンは、次の4地域の災害救援募金活動を行いました。



地域	地区	期間	募金金額
台風14号復興義援募金	沖縄県全店舗 (112店舗)	2003年9月30日 ～10月27日	124万2405円
九州集中豪雨災害救援募金	九州全域の全店舗 (約870店舗)	2003年7月29日 ～8月25日	348万290円
宮城県北部地震災害救援募金	東北全県の全店舗 (約640店舗)	2003年7月31日 ～8月27日	163万131円
北海道十勝沖地震災害救援募金	北海道の全店舗 (475店舗)	2003年10月6日 ～10月27日	82万362円

LAWSON PASSで社会貢献活動

「LAWSON PASS」をレジでご提示いただくとお支払い金額に応じてポイントがたまります。たまったポイントの使用方法は複数ありますが、「環境社会貢献コース」をお選びいただくと、ポイントに相当する金額を社会貢献の団体に寄付します。日頃のお買い物で社会貢献につながるお手伝いをしています。



2003年度は合計166万3875円を下記の団体に寄付させていただき、活用いただいています。

- バングラデシュの新しい学校建設費の一部になりました
- ミシンを約30台購入し、現地での技術指導に活用しています



寄付先：
アジア教育支援の会 (ESA)
教育こそ貧困と差別を克服する力であるという理念のもとで、インド、バングラデシュ、ネパールの貧しい子供たちの教育、女性の自立、教育環境の整備を支援しています。



寄付先：
ブリッジ エーシア ジャパン (BAJ)
ベトナムやミャンマー・スリランカの難民、障害を持つ子供たちや青年、雇用機会の少ない女性などを対象に技術習得の機会を設け、その技術を収益に結びつける場をつくっています。

- 約58万食分の給食・保育所で使用する玩具、教材を購入できました



寄付先：
幼い難民を考える会 (CYR)
カンボジアの農村や都市部で、子供たちのための保育所の運営に協力しています。子供たちが安心して暮らせる環境づくりを、地域の人たちと協力しながら行っています。



寄付先：
(財) 日本盲導犬協会
盲導犬の育成によって、視覚障害者の社会参加の促進などを目的に活動しています。

©小林正典

夢のある豊かな社会の実現を目指して 創造的な行動をつづけてまいります

私たちローソンは、社会貢献活動を通じて豊かな社会の実現を目指します。その一貫として、様々なスポーツ活動への支援や、災害時の対応、地域の美化活動などを積極的に行っています。



●九州支社 福岡ダイエーホークスを九州全体で応援

九州支社では、プロ野球球団福岡ダイエーホークスを支援し、「がんばれホークスタイヤップ企画」を毎年実施しています。ホークス選手が好きなおかずを詰めた弁当や応援袋を販売するほか、福岡ダイエーホークスを盛り上げる様々なキャンペーンを行っています。



●九州支社（長崎地区） 高校総体支援で、競技場案内の地図を配布



長崎県で行われた全国高等学校総合体育大会（高校総体）「2003年長崎ゆめ総体」。長崎地区の79店舗では、長崎名物の具材を盛り込んだ応援弁当やお土産品を販売するとともに、競技場案内の大会ガイドマップを作成し、無料で配布しました。

●近畿支社 支社周辺を週1回清掃

近畿支社では江坂駅周辺の清掃を行っています。毎週金曜日に各部署から十数名が出てゴミ袋を手に、歩道や道路に捨てられているタバコの吸い殻や空き缶、ビニール袋などを拾っています。



●東北支社（盛岡地区） 市民ラグビーチーム「釜石シーウェイブス」にスポンサー協賛

地域共生のラグビー市民クラブチーム「釜石シーウェイブスRFC」。東北支社では地域密着というチームの理念に賛同し、チームの運営やロゴ入りユニフォームの作成に協賛するほか、試合応援に参加しています。

●関東支社（新潟地区） アルビレックス新潟 J1昇格でチケットなどをプレゼント



Jリーグ「アルビレックス新潟」のオフィシャルスポンサーとして、新潟県内の店舗においてクラブ還元型の商品開発やプロモーションを展開し、選手とサポーターの掛け橋として活動しています。J1昇格が決定した折には、抽選で個室観戦チケット、プレミアムグッズ等をプレゼントしました。

●関東支社（関東第5運営部） 川崎フロンターレと共催でサッカー大会を開催



関東支社では、サッカーJ2の川崎フロンターレと共同主催で「川崎フロンターレ・ローソニックカップ」を開催しています。昨年は、6月1日から約半年かけて485チームが上級、中級、初級、30歳以上、障害者などの10の枠で優勝を競い合いました。

防災体制を整備しています

大規模な災害が起きた場合、ローソンは地域のライフラインの一部として被災地の店舗の営業継続を目指します。そのため防災体制を整備して店舗の支援体制を整えています。定期的に防災訓練を実施しているほか、通信の多重化やマニュアル、災害用常備品の整備をしています。



お客さまの便利な生活と地域社会の発展のため ローソンは進化しつづけます

私たちローソンは、24時間モノを売るだけでなく、あらゆる情報の発信基地として人が集う生活拠点の創造を目指しています。地域の皆さまが豊かで快適な生活を送れるように、様々なサービスを提供しています。

ポイントが貯まる LAWSON PASS

入会金・年会費無料のクレジット機能付きポイントカード「LAWSON PASS」は、ローソンで買い物をするたびにポイントがたまり特典を受けられるほか、クレジットショッピングやキャッシングにも利用できます。会員価格やボーナスポイント、チケット優先予約などの特典も充実した便利でお得なカードです。



買い物も予約も Loppi で

ローソンの店頭で設置されたマルチメディア端末「Loppi」は、コンサートやテーマパーク等のチケット購入、旅行の手配、DVD等の予約、検定試験の申込み、郵便局の産地直送ギフトの購入など様々なサービスのメニューをそろえています。自治体の公共情報の検索や公共施設の予約もできますので（一部地域）、地域の方々に便利にご利用いただけます。画面の案内にしたがって、簡単に便利に操作できる端末です。



24時間ATMサービス

日本国内の全ての都市銀行、地方銀行、信用金庫等のキャッシュカード、及び郵便貯金のカードによるお引出しが可能なATMサービスを提供。さらに提携銀行のカードなら早朝から深夜まで、お預入れ等のサービスも提供しています。提携金融機関は13銀行、ATM設置台数は3172台（共に2004年2月末現在）で今後も拡大いたします。



コンビニポスト ローポスくん

2003年1月から、コンビニエンスストアとしてはじめて、日本郵政公社と提携して郵便サービスを展開しています。全国のローソンに郵便ポスト「ローポスくん」を設置したほか、Loppiでふるさと小包の取り扱いなどを行っています。より地域に溶け込んだサービスを目指します。



ますます便利な収納代行

電気、水道、ガス等の公共料金や通信料金、通信販売の代金など、ローソン店舗で各種料金のお支払いができます。2004年4月からは国民年金保険料や一部自治体の国民健康保険料と住民税や自動車税等の収納代行も開始しました。

公共サービス

千葉縣市川市、東京都北区では、店舗で住民票を受け取れます。予め電話で役所に注文し、受け取り店舗を指定します。また、岐阜県の一部エリアではローソン店舗で岐阜県立図書館の本の返却と受け取りができます。

店内施設

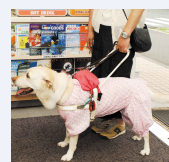
●ユニバーサルデザイン

障害のある方や高齢者、妊娠している方が快適に使いやすい店舗であることを目指して、店内はユニバーサルデザインを進めています。



●ワーキングドッグ受け入れ

健常者も障害のある方も、ともに快適に安心してご利用できる店舗であるために「盲導犬」「介助犬」「聴導犬」の入店を受け入れています。



●トイレ開放宣言

「マチのほっとステーション」として地域の方に身近にご利用いただくために、私たちローソンでは全国の店舗でお客さまにトイレを開放しています。



臓器提供意思表示カード

1999年1月から（社）日本臓器移植ネットワークの協力により、臓器提供医師カードとパンフレットを置いて、自由にお持ち帰りいただいています。2004年2月末までに全国のローソンの店舗から約601万7780枚（累計）のカードがお客さまのお手元に渡りました。



お客さまの健康志向に応える実験店 ナチュラルローソンを展開中です

健康と環境をコンセプトにしたナチュラルローソンは、女性の方を中心に高まっている健康志向にマッチして好評です。これまでに東京都・神奈川県で12店舗（2004年2月末現在）を展開してきました。

ナチュラルローソンとは

「毎日食べてどんどん健康を実現する」をコンセプトに、生産者や原材料にこだわった食品、肌にやさしい無添加化粧品*などを品揃えした新しいスタイルのコンビニエンスストアです。健康を意識する人に、健康に配慮した商品を提供するとともに、食べ物にカロリーやアレルギーを表示するなど健康に関する情報を発信しています。

*無添加化粧品とは…素材となる天然原料を厳選し、余分な添加物を一切加えない化粧品のことです。



- 栄養バランスとカロリーに配慮したお弁当
- 玄米を使用したお弁当・おにぎり
- 焼きたてパンとイースト無添加のパン

●ナチュラルローソンの商品例

- ・素材にこだわったお菓子やデザート
- ・健康志向の飲料
- ・製法や原材料にこだわった調味料
- ・新鮮な有機野菜
- ・オリジナルサプリメント
- ・環境と肌にやさしい洗剤、石けん
- ・オーガニック素材のタオル
- ・肌にやさしい化粧品

環境に配慮した取り組み



- ・お弁当につける割り箸は国内産杉の端材を使用しています。
- ・地球にやさしい100%天然原料の洗剤を販売しています。
- ・サンドイッチの包材に、環境にやさしい水性インキを使用しています。



地域の皆さまのニーズに応え

ローソンは新しいお店づくりにチャレンジします

私たちローソンは、地域のマチに合ったお店となるよう努力することが「マチのほっとステーション」実現の近道だと考えました。私たちは、新しい立地で新しいニーズに合ったサービスを提供することに、チャレンジしつづけています。ローソンの新しいスタイルのお店は全国に広がっています。

病院内立地

(関東中央病院店)



病院内店舗。車椅子の患者さんも困らない広々とした通路や、入院患者さんやお見舞いのお客さまに便利な品ぞろえが特徴です。

調剤薬局併設店舗

(ナチュラルローソン東大赤門前店)



調剤薬局併設店。薬局では調剤だけでなく、健康相談や栄養相談サービスなども行います。ローソンでは健康食品やサプリメントなどの品ぞろえを充実しています。

セルフガソリンスタンド

併設店舗 (稲毛海浜公園前店)



新日本石油(株)が展開するセルフサービスステーション「ENEOS」との複合店。人件費、施設費のシェアリングによるローコスト運営モデル店です。

郵便局内立地

(ポスタルローソン代々木局店)



郵便局に來られたお客さまへのサービスの相乗効果を狙い、通常の品揃えに加えて封筒や便箋、グリーティングカードなど郵便に関連した商品を充実させました。CD試聴サービスなど、新しいサービスも提供しています。

地下鉄駅構内立地

(溜池山王メトロピア店)



地下鉄駅構内に出店。地下鉄を利用するお客さまのニーズに合わせ、飲料や雑誌などが手にとりやすいようにレイアウトを工夫したほか、レジの台数も増やしています。外観は駅の雰囲気に合わせて、駅ごとにデザインを変えています。

和歌山県の木材を使用した店舗

(御坊名田町店)



地元の紀州材をふんだんに使用し、店内には地元の特産品を多くそろえ、和歌山県の良さをアピールしています。



景観に配慮したローソン



丸の内さくら通店
都市型店舗として全面ガラス張りでスタイリッシュな作りが特徴です。



桜島店
国立公園の桜島内にオープンした店の外観は溶岩色となっています。



八坂神社前店
古京都の街並みに配慮し、八坂神社の景観にあわせ和風な造りになっています。

地域の皆さまにどんな貢献ができるか 全国7,821の店舗が知恵を絞って活動しています

一店一役運動

一店一役運動とは、「マチのほっとステーション」を目指した各店舗での自主的な活動です。全国7,821のローソン全てが、地域のお役に立てるよう各々の活動に取り組んでいます。店舗がオープンするときに、その地域のために何ができるかをオーナーさんとともに考え、活動をスタートします。こうして知恵を絞って生まれた活動は、公園やトイレ等地域の美化活動、小学生や中学生の社会科見学・体験学習の受け入れ、アルミ缶などの回収による換金寄付など、バラエティに富んでいます。



子供たちにお菓子やケーキをプレゼント

南鹿児島駅前店（鹿児島） オーナー 奥 義隆さん
10年前から「母子生活支援施設（菊花寮）」の子供たちに「子供の日」と「クリスマス」にお菓子やケーキをプレゼントしています。昨年のクリスマスは、サンタクロース姿でケーキをプレゼントしたところ、子供たちはほんとうに驚き、喜んでくれました。そのお礼に手作りの携帯ストラップや感謝の手紙をいただきました。

花火大会のごみを回収



**向島一丁目店（東京）
オーナー 渡辺 準さん**
お客さまに気持ちよく店を利用させていただくと、オープン当初から1日2～3回、店の前の道路を2ブロック分にわたって清掃しています。隅田川花火大会の折にはお客さまに花火大会を楽しんでいただけるように店で見物客のごみを回収、終了後には清掃も実施しています。

堺市の教職員の研修を受け入れ



**七道駅前店（大阪）
オーナー 辻 良三さん**
堺市教職員の方が民間企業を体験する研修に毎年、協力しています。教室の中だけでなく世の中のこともっと知っていただこうと考え、3日間でコンビニエンスストアの仕組みの講義にはじまって接客の練習、レジ操作、商品の陳列などを実地で行ってもらっています。教員の方からは「販売する側のことがよくわかった」などのお礼の言葉をいただいています。

防犯ポスターの優秀作品を掲示



日光所野店（栃木）

オーナー 坂野一茂さん

藤原町大原店、今市大沢インター店、日光所野店の3店共同企画で、地域防犯の一助に

と、近隣中学校7校に応募を呼びかけ「防犯ポスターコンクール」を開催しました。優秀作品を店頭に掲示したところ、近隣のお客さまに「防犯への意識が高まる」と喜んでいただきました。

小学校の社会科見学に協力



札幌学院大学前店（北海道）

オーナー 小野寺義孝さん

江別市立文京台小学校からの依頼で社会科学習に協力し、商品の納品方法や品ぞろえなどを説明しています。身体障害者のお客さまが多いので、特に接し方で気をつけていることも説明していますが、毎回、子どもたちは目をきらきらさせて聞いてくれます。

ペットボトルのキャップを寄贈



気仙沼最知店（宮城）

オーナー 熊谷智行さん

ペットボトルの容器とキャップの分別に力を入れています。分別したキャップは近隣の小中学校から依頼があるため、保管しておき差し上げています。中学校では卒業生のためにキャップで記念の絵を製作したとのことで、ごみも立派な絵になるんだと感動しました。

障害者施設の子供をライブに招待



七反野一丁目店（愛知）
オーナー 井上光夫さん
 「社会福祉法人すぎな」という知的障害者施設で子供たちが手芸品を一生懸命作っていることを知り、PRのために店頭の手芸品を置いてその購入代金をお預かりしています。昨年のクリスマスには、総勢50人のみなさんをご招待し、ライブとケーキが当たる抽選会を行いました。イベントは大いに盛り上がり、子供たちと心を通い合わせる事ができました。

子供の健全な成長のための体験学習



米子弓ヶ浜店（鳥取）
店長 田内睦彦さん
 地元で酒店を営んでいたこともあり「地域に恩返ししたい」という一心で青少年の育成に取り組んでいます。毎年5月には1週間、近くの中学校から3～5人ずつ体験学習を受け入れています。2年前には中学1年生に対し、「今後の進路」というテーマでローソンの仕事について講演も行いました。



空き缶を利用して万華鏡を制作

摂津東一津屋店（大阪）
オーナー 橋本 優さん
 紙管・空き缶を利用した「万華鏡」の制作指導と作品の販売を、身体障害者のみなさんと一緒に行い、その売上金を施設に寄付しています。材料はすべてリサイクル品を利用し、材料費を抑えています。今年からは工作教室をはじめます。

イベントで子供たちの思い出づくり



如意北店（愛知）
オーナー 若松昭子さん
 子供たちにローソンで楽しい思い出をつくってもらおうと、七夕に願い事を書いてもらった短冊とお菓子をつけた笹竹を枝ごと折って差し上げたり、お正月にはくじびきでお菓子が当たるイベントに挑戦してもらったりしています。また、昨年暮れには「一日店長」を募集し、6組12人の子供たちに店長になってもらいました。子供たちはお客さまにつり銭を渡したり商品を袋につめたり、張り切って仕事をしていました。

ほっとステーションMAP

「マチのほっとステーション」として、地域情報を発信することも、地域貢献活動のひとつです。各店舗では、周辺を案内するオリジナルマップ「ほっとステーションMAP」を作成しています。店舗内に掲示するイラスト入りマップと、カウンター内には詳細な道案内のマップを用意しています。

“花の町”のよさが伝わるMAPに



斐川荘原店（鳥根）
オーナー 原 包さん
 “花の町”斐川町のよさがお客さまに伝わるように、クルーが時間をかけて描いてくれました。お客さまから、「カワイイね!」とおっしゃっていただいています。とてもうれしかったですね。

立体的なMAPで見やすく



山陽町厚狭店（山口）
オーナー 西村 豊さん
 下関市、宇部市、山口市、さらに秋吉台、萩・長門などの観光地の中間に位置している店なので、シンボリックな建物や風景を随所に入れました。クレパスでカラフルにしたうえ、見やすくわかりやすいように立体的な地図に仕上げました。ご希望の方には縮小版をカラーコピーしてお渡ししています。

近くの団地などを月1回清掃



寝屋川点野五丁目店（大阪）
店長 卜部吉典さん
 月1回、近くの住宅街や団地などを4～5人で清掃しています。ローソンのレジ袋が落ちていることも多いので、イメージアップのためにも頑張っています。

愛情を込めてつくっています

袖ヶ浦滝の口店（千葉）
店長 松井恵子さん
 イラストを多用して作りました。お客さまからよくたずねられる場所をどんどん書き足してより充実したMAPにしています。お客さまには「かわいい」「おもしろい」と喜ばれています。



未来の地球環境を考える皆さまと力をあわせ 一つひとつの善意を、一本の木から森へと育てています

「ローソン緑の募金」の緑化貢献事業は1992年にスタートし、今年で13年目を迎えました。全国の店舗へ寄せられた皆さまの善意は、(社)国土緑化推進機構を通じて各地の植樹事業をはじめとするさまざまな緑化活動を支えています。これからも「地球と人にやさしいマチのほっとステーション」を目指して、ローソンは緑化貢献事業をよりいっそう積極的に展開していこうと考えています。豊かな自然に恵まれた美しい未来のために、これからも皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

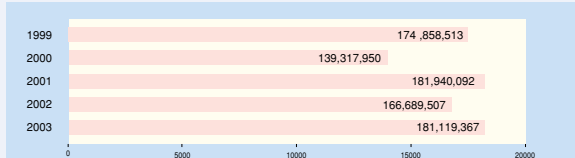
ローソン緑の募金

将来の世代に豊かな森林を残すため、ローソン店頭で「緑の募金」活動を展開しています。1992年に募金が、1994年に植林活動がスタートしました。これまでに皆さまからいただいた寄付の累計はおよそ15億5000万円(2004年2月末)、支援した緑化活動は全国47都道府県208地域、植樹本数はおよそ18万本(2004年2月末)に及びます。皆さまの小さな善意が大きな実を結んでいます。

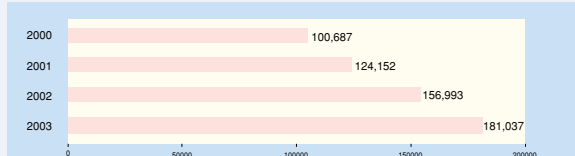
ローソン緑の募金

1億8,111万9,367円(2003年度)
累計15億4,736万2,695円(1992年9月～2003年度)
植樹本数 18万1,037本

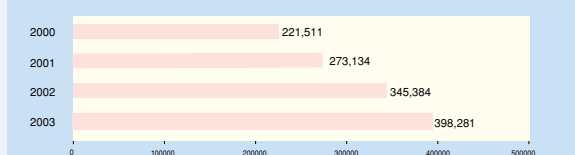
「緑の募金」の寄付金額(円)



植樹した本数(本)



CO₂削減量(試算/累計)(Kg-CO₂)



ローソン花と緑の日

ローソンでは、2001年に緑化貢献事業のシンボルとして

「ローソン花と緑の日」

5月18日(日)

(毎年5月第3日曜日)

「ローソン花いっぱい運動」として
花の種子(パチュニアと百日草)を
プレゼントします。



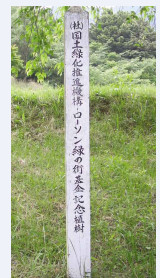
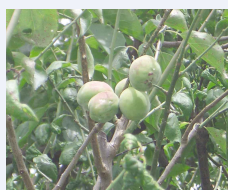
5月の第3日曜日を『ローソン花と緑の日』と決めました。毎年、富士山での植樹活動と、全国全店舗での花の種子プレゼントを実施しています。



ローソン緑の募金による植樹活動は満10年を迎えました

第1回植樹は、1994年5月15日、福岡県緑化センター(福岡県浮羽郡田主丸町)における「グリーンフェスティバル」行事の一環として行いました。

植樹した梅3本、シダレ桜6本、サツキ100本は元気に育成し、梅には立派な果実も実っています。また、毎年春先にはシダレ桜が咲き誇り、訪れる方々を魅了しています。





●ローソン緑いっぱい運動

(富士山ローソンの森づくり)

日本全国の緑化貢献事業を象徴する活動として、富士山の台風被災地を豊かな生態系をもつ自然林へと復元することを旨とし、植樹活動を実施しています。2003年度で4回目となり、オーナーさんをはじめ多くの皆さまにご参加いただきました。

富士山での植樹会は、今後も緑化貢献事業の柱として、毎年実施していきます。

●ローソン花いっぱい運動(花の種子をプレゼント)

皆さまの街に花が増えることを願うとともに、お客さまへの日頃の感謝の意を込めて、全国全店舗で花の種子(パチュニアと百日草)をプレゼントしました。

2003年度緑化事業活動実績

2003年

- 3月 8日 奈良県大和郡山市／森が喜ぶボランティア植林祭
主催：グリーンボランティアクラブならクラブ／420本植樹
- 3月 8日 新潟県巻町／角田山の里山、植樹、植花イベント
主催：溪流再生フォーラム／100本植樹、1000本植栽
- 3月 8日 神奈川県湯河原町／紅葉の郷づくり植樹祭
主催：湯河原町まちづくり“森林ボランティア”／300本植樹
- 3月 9日 大阪府箕面市／さわやかボランティア間伐の森・間伐体験事業
主催：日本森林ボランティア協会／スギ・ヒノキの伐採
- 3月 9日 東京都日の出町／みどりの森整備事業
主催：東京緑化推進委員会／140本植樹
- 3月 15日 岐阜県岐阜市／第3回みんなの力で緑を大作戦
主催：社団法人岐阜県緑化推進委員会／2400本植樹
- 3月 16日 京都府日吉町／府民の森ひよし 森林倶楽部記念植樹
主催：「府民の森ひよし」森林倶楽部／高木10本植樹
- 4月 13日 東京都八王子市／高尾の森づくりの会植樹祭
主催：社団法人日本山岳会自然保護委員会 高尾の森づくりの会／1300本植樹

- 4月 19日 東京都御蔵島村／御蔵島の台風被害の森再生事業
主催：巨樹の会／1004本植樹
- 4月 19日 長野県中川村／松くい虫被害林を緑にしよう！事業
主催：NPO法人 緑化推進環境改善協会／350本植樹
- 4月 20日 神奈川県相模湖町／春爛漫：花の咲く木・植樹祭
主催：NPO法人 緑のダム・北相模／1300本植樹
- 4月 24日 佐賀県三瀬村／泉水の森づくり植林事業
主催：川副町水産業活性化対策協議会／400本植樹
- 4月 25日 千葉県富山町／ハイウェイオアシス富楽里・道の駅 富楽里とみやま竣工記念式典
主催：富山町／高木18本を記念植樹
- 4月 27日 栃木県足尾市／足尾・春の植樹デー事業
主催：わたらせ未来基金／150本植樹
- 4月 29日 宮城県栗駒町／栗駒町緑化活動推進事業
主催：栗駒自然を守る会・消費科学連合会みどりの会／600本植樹
- 4月 29日 愛知県稲武町／どんぐりの里・ヨバリガネ森林づくり事業
主催：桑原地区コミュニティ／211本植樹
- 5月 10日 富山県山田村／富山県山田村・春の植樹行事
主催：かしも山歩倶楽部／200本植樹
- 5月 18日 北海道早来町／野生動物の住める森づくり森林教室
主催：野生動物のすめる森づくりネットワーク／80本植樹
- 5月 18日 静岡県富士宮市／富士山ローソンの森づくり事業
主催：富士山緑の募金の森造成事業実行委員会／2800本植樹
- 5月 25日 山梨県大月市／森への想い育む植樹祭
主催：大月森づくりの会／30本植樹
- 6月 7日 新潟県湯沢町／三国地区緑化推進事業
主催：三国地区森林づくり協議会／80本植樹、ベンチ設置などの森林整備活動
- 6月 12日 青森県大鰐町／21世紀記念分収造林「はやせの森」事業
主催：三陸森の会／ミズナラ600本植樹、下刈り活動
- 8月 9日 岡山県井原市／エコキャンプ2003
主催：山陽新聞社／50本植樹
- 9月 14日 青森県黒石市／こけしの森林づくり育樹祭
主催：こけしの森林づくり実行委員会／65本植樹、下草刈りなど
- 10月 4日 兵庫県川市川町／第5回めぐみの森づくり運動植樹大会
主催：姫路地区緑の少年団連絡協議会／300本植樹
- 10月 11日 愛知県津具村／天狗の森つぐ、清流の森植樹会
主催：津具村水辺協議会／570本植樹
- 10月 11日 新潟県笹神村／里山整備保全植樹祭
主催：NPO法人里山クリーン新潟／300本植樹
- 10月 13日 山形県南陽市／公社と県民が育てる“やまがた森林づくり”事業
主催：財団法人山形県林業公社／460本植樹および記念植樹
- 10月 13日 広島県上下町／芦田川源流植林事業
主催：福山平成ライオンズクラブ／1500本植樹
- 10月 25日 秋田県象潟町／第9回鳥海山にブナを植える会植樹会
主催：鳥海山にブナを植える会／1000本植樹
- 10月 25日 島根県匹見町／森づくり体験活動事業
主催：遊木民倶楽部／除伐、間伐、下刈りなどの育樹活動
- 11月 1日 長野県南木曾町／木曾川水系・下流域住民の交流による水源の里森づくり事業
主催：森林自由クラブ／除間伐、間伐材運搬、枝打ちなどの育樹活動
- 11月 3日 三重県大宮町／三重県における里山復興事業
主催：里山友好の会／間伐、山道整備などの森林整備活動
- 11月 8日 長野県小川村／みんなの森づくり事業
主催：信州フォレストワーク／枝打ちなどの育樹活動
- 11月 8日 佐賀県有田町／佐賀県有田町植樹祭
主催：有田町／643本植樹
- 11月 9日 宮城県加美町／やくらい森の会・秋の植樹会
主催：やくらい森の会／80本植樹
- 11月 14日 宮崎県小林市／県道1号みどりのトンネル推進事業
主催：県道1号みどりのトンネル推進協議会／樹木の手入れおよび周辺のゴミ収集
- 11月 30日 埼玉県上福岡市／ドッグランのオープニング植樹式
主催：上福岡市・上福岡市愛犬家協会／70本植樹

2004年

- 1月 31日 鹿児島県鹿児島市／桜島の緑を守り育てる集い
主催：鹿児島市・鹿児島地区林業振興協議会・鹿児島地区緑化推進協議会／1500本植樹
- 2月 9日 大阪府大阪市／学校ビオトープ整備事業
主催：大阪市立加島小学校、財団法人大阪みどりのトラスト協会／ミカン3本の記念植樹
- 2月 15日 京都府日吉町／「府民の森ひよし」森林倶楽部植樹
主催：府民の森ひよし・森林倶楽部／高木10本植樹
- 2月 15日 鹿児島県与論町／甕れヨロンのみどり再生事業植樹
主催：ヨロンみどりを再生する会・与論町／2000本植樹
- 2月 20日 徳島県木沢村／木沢村山林緑化推進事業活動
主催：鳥雲の森沙漠植林ボランティア協会／400本植樹
- 2月 22日 静岡県浜松市／三方原開拓 夢のしだれ桜公園づくり事業
主催：縄文倶楽部／100本植樹
- 2月 22日 高知県香北町／ふれあい21世紀の森づくり事業
主催：物部川21世紀の森と水の会／1000本植樹
- 2月 29日 鹿児島県野田町／親と子と森 ふれあい交流会
主催：出水地区森林・林業振興協議会／500本

1年間で計46カ所、2万4,044本植樹

皆さまの善意が全国で実を結んでいます

「ローソン緑の募金」による緑化活動は、皆さまのご協力により全国に広がっています。2003年度は全国46カ所で、合計2万本の木を植えました。

全国に広がる緑化活動



北海道早来町
野生動物の住める森づくり森林教室
2003年5月18日



宮城県加美町
やくらい森の会・秋の植樹会
2003年11月9日



東京都御蔵島村
御蔵島の台風被害の森再生事業
2003年4月19日

静岡県富士宮市
富士山ローソンの森づくり事業
2003年5月18日



青森県大鰐町
21世紀記念分収造林「はやせの森」事業
2003年6月12日



新潟県巻町
角田山の里山、植樹、植花イベント
2003年3月8日



神奈川県湯河原町
紅葉の郷づくり植樹祭
2003年3月8日



山梨県大月市
森への想い育む植樹祭
2003年5月25日



青森県黒石市
こけしの森林づくり育樹祭
2003年9月14日



新潟県湯沢町
三国地区緑化推進事業
2003年6月7日



神奈川県相模湖町
春爛漫：花の咲く木・植樹祭
2003年4月20日



長野県中川村
松くい虫被害林を緑にしよう！事業
2003年4月19日



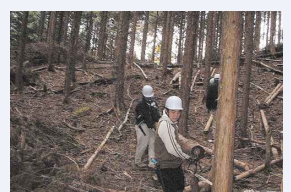
秋田県象潟町
第9回鳥海山にブナを植える会植樹会
2003年10月25日



新潟県笹神村
里山整備保全植樹祭
2003年10月11日



千葉県富山町
ハイウェイオアシス富楽里・道の
駅 富楽里とみやま竣工記念式典
2003年4月25日



長野県南木曾町
木曾川水系上・下流域住民の交流
による水源の里森づくり事業
2003年11月1日



山形県南陽市
公社と県民が育てる“やまがた森
林づくり”事業
2003年10月13日



東京都日の出町
みどりの森整備事業
2003年3月9日



栃木県足尾市
足尾・春の植樹デー事業
2003年4月27日



長野県小川村
みんなの森づくり事業
2003年11月8日



宮城県栗駒町
栗駒町緑化活動推進事業
2003年4月29日



東京都八王子市
高尾の森づくりの会植樹祭
2003年4月13日



埼玉県上福岡市
ドッグランのオープニング植樹式
2003年11月30日



富山県山田村
富山県山田村・春の植樹行事
2003年5月10日



兵庫県市川町
第5回めぐみの森づくり運動植樹大会
2003年10月4日



佐賀県三瀬村
泉水の森づくり植林事業
2003年4月24日



静岡県浜松市
三方原開拓 夢のしだれ桜公園づ
くり事業
2004年2月22日



京都府日吉町
「府民の森ひよし」森林倶楽部記念植
樹 2003年3月16日



岡山県井原市
エコキャンプ2003
2003年8月9日



佐賀県有田町
佐賀県有田町植樹祭
2003年11月8日



愛知県津具村
天狗の森つぐ、清流の森植樹会
2003年10月11日



京都府日吉町
「府民の森ひよし」森林倶楽部植樹
2004年2月15日



広島県上下町
芦田川源流植林事業
2003年10月13日



宮崎県小林市
県道1号みどりのトンネル推進事業
2003年11月14日



愛知県稲武町
どんぐりの里・ヨバリガネ森林づくり事業
2003年4月29日



奈良県大和郡山市
森が喜ぶボランティア植林祭
2003年3月8日



島根県匹見町
森づくり体験活動事業
2003年10月25日



鹿児島県鹿児島市
桜島の緑を守り育てる集い
2004年1月31日



岐阜県岐阜市
第3回みんなの力で緑を大作戦
2003年3月15日



大阪府箕面市
さわやかボランティア間伐の森・
間伐体験事業
2003年3月9日



徳島県木沢村
木沢村山林緑化推進事業活動
2004年2月20日



鹿児島県与論町
甕れヨロンのみどり再生事業植樹
2004年2月15日



三重県大宮町
三重県における里山復興事業
2003年11月3日



大阪府大阪市
大阪府大阪市学校ビオトープ整備事業
2004年2月9日



高知県香北町
ふれあい21世紀の森づくり事業
2004年2月22日



鹿児島県野田町
親と子と森 ふれあい交流会
2004年2月29日

私たちは環境と調和した企業経営に務めています

環境方針 (ISO 14001)

基本理念

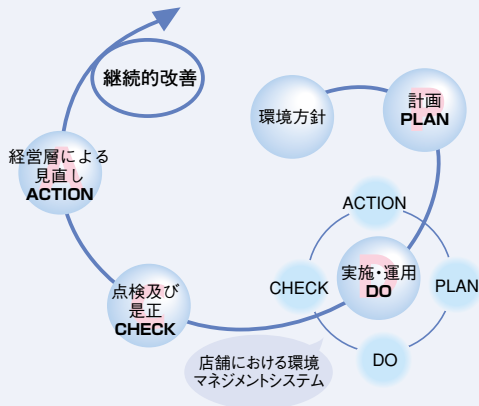
地球環境の保全が、人類および自然環境を含む生態系の存続に関わる、世界共通の重要課題であると認識し、健全な環境を次代に引き継ぐことが私たちの義務であると考えます。

ローソンは、事業活動と環境との調和、積極的な社会貢献活動を通じ、人間と自然との共生を図り、社会の持続的発展に向けて行動してまいります。

方針

- ①事業活動、商品、サービスについての環境影響評価に基づき、技術的、経済的に可能な範囲で環境目的・目標を定めて、環境保全活動の継続的な改善及び汚染の予防を図ります。
- ②環境保全に関する法律、規制、協定などを遵守し、環境管理の向上を図ります。
- ③事業活動における廃棄物の減量化とリサイクルに取り組みます。
- ④事業活動における省資源、省エネルギーに取り組みます。
- ⑤事業活動における環境汚染物質排出量の削減に取り組みます。
- ⑥地域における緑化、街の美化活動など、環境保全への支援・協力活動に取り組みます。
- ⑦環境教育や広報活動を実施し、環境保全に関する意識の向上を図ります。

●ローソン環境マネジメントシステム



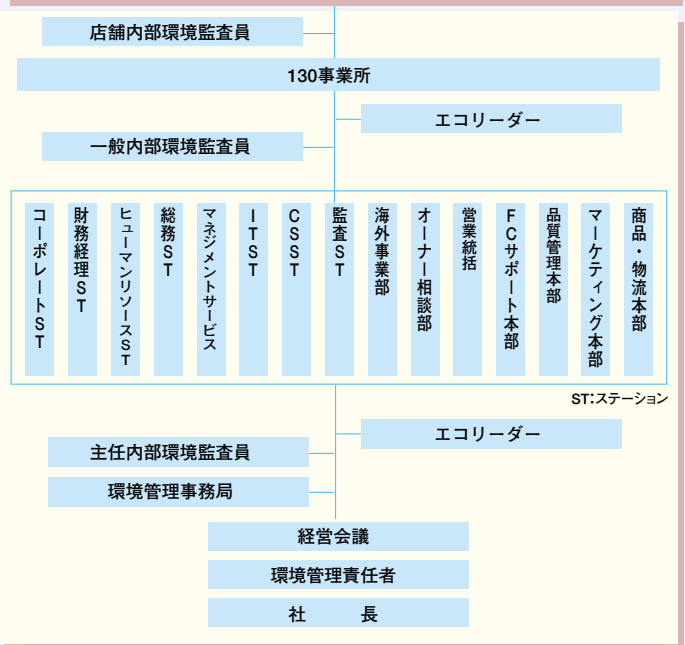
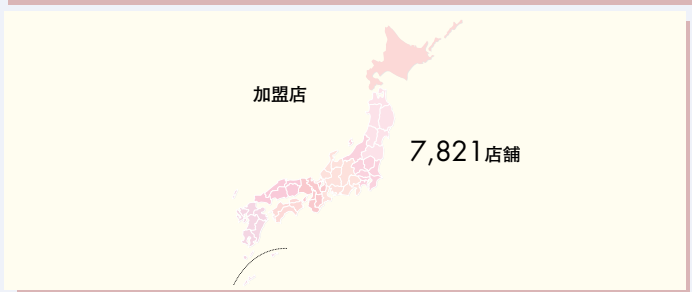
ISO14001

1998年12月、(財)日本品質保証機構(以下JQA)の登録審査により、ローソンは環境マネジメントシステム「ISO14001」の認証を取得しました。2003年度はJQAの定期審査を受審し、不適合となる指摘はありませんでした。「ISO14001」規格に基づく環境マネジメントシステムが維持・管理されていると確認されました。今後も継続的な改善を図ってまいります。



●環境組織図 (環境マネジメントシステムの運用)

ステイクホルダー (利害関係者)



●会社をあげて継続的な改善を目指します

ローソンでは、本部を中心に会社全体で環境マネジメントの実施に取り組むことはもとより、オーナーさん、クルーさんとスーパーバイザー（店舗経営指導員）とが丸となって店舗における「Plan→Do→Check→Action」にも、積極的に取り組んでいます。環境マネジメントの継続的な改善を目指しています。

環境会計

ローソンでは、1999年度から「環境保全活動に関わるコスト及び効果」を把握し、適切な経営判断を通じて、今後もさらに効率的かつ効果的な環境保全活動の推進を図ります。2003年度の環境保全活動の全体を、各分類ごとに主な取り組み内容とそのコスト（投資・費用）、その効果を把握し、可能な限り定量的（貨幣単位または物量単位）に公表します。※「環境会計ガイドブック2003年版」を参考にして算出し、公表します。

集計範囲：ローソン単体及び加盟店、物流取引先の取り組み含む 対象期間：2003年3月1日～2004年2月29日

環境保全コスト				
分類	主な取り組みの内容	投資額（単位：千円）	費用額（単位：千円）	
(1) 事業エリア内コスト				
内訳	(1)－1 公害防止コスト	し尿浄化槽の点検・整備（加盟店負担：1287店）	0	32,288
		し尿浄化槽の点検・整備（本部負担：38店）	0	1,376
	(1)－2 地球環境保全コスト	電圧調整器の導入（加盟店負担：2店）	500	16
		電圧調整器の導入（本部負担：445店）	144,048	3,560
		自動調光照明システムの導入（加盟店負担：38店）	500	0
		自動調光照明システムの導入（本部負担：586店）	312,000	0
		フロンガス回収・破壊（1523件）	0	96,710
	(1)－3 資源循環コスト	レジ袋の軽量化	0	0
		帳票機密保持型処理費用	0	3,173
		コンテナ・オリコンのリサイクル	0	187,661
		廃棄物の適法処理（事務所）	0	402,876
		事業系一般廃棄物の適法処理（加盟店）	0	164,418
		事業系一般廃棄物の適法処理（直営店）	0	72,539
		食品廃棄物リサイクル費用（加盟店）	0	482
		店舗廃棄物実態調査費用	0	300
	店頭クリーンボックス実験什器費用	621	185	
	店頭クリーンボックス実験消費者調査費用	0	2,277	
	本部コスト小計	456,669	770,657	
	加盟店コスト小計	1,000	197,204	
(2) 上・下流コスト				
	容器包装リサイクル法再商品化義務委託料（加盟店）	0	87,492	
	容器包装リサイクル法義務委託料（直営店・本部）	0	38,997	
	米飯・惣菜容器包装の環境配慮素材への切り替え（54.4%）	0	0	
	本部コスト小計	0	38,997	
	加盟店コスト小計	0	87,492	
(3) 管理活動コスト				
	EMS構築費用	0	2,406	
	内部環境監査員教育費	0	571	
	環境報告書、ポスター制作費等	0	8,605	
	企業広告費（新聞、CM制作）等	0	3,500	
	本部コスト小計		15,082	
(4) 研究開発コスト				
	店舗の環境負荷低減のための研究・開発コスト	8,362	0	
	廃棄物リサイクル研究会費用等	0	337	
	環境関連書籍購入、セミナー出席費等	0	423	
	本部コスト小計	8,362	760	
(5) 社会活動コスト				
	国土緑化推進機構への寄付	0	15,000	
	NPO等への寄付	0	1,137	
	ボランティア記念品費等	0	2,008	
	緑化事業コスト	0	6,215	
	清掃活動コスト	0	2,070	
	本部コスト小計	0	26,430	
(6) 環境損傷対応コスト				
	環境関連法令の遵守、土壌汚染等の修復コスト			
当該期間の投資額の総額				
項目	内容等	金額（単位：千円）		
当該期間の投資額の総額	電圧調整器・自動照明調光システムの導入（加盟店負担） 電圧調整器・自動照明調光システムの導入（本部負担）	1,000 456,048		
当該期間の研究開発費の総額				
	環境負荷低減のための研究・開発コスト	8,362		

環境保全効果			
効果の内容	①事業活動に投入する資源に関する効果 ②事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	環境保全効果を表す指標	
		指標の分類	CO ₂ 換算（kg-CO ₂ ）改善量
(1) 事業エリア内コストに対応する効果	①事業活動に投入する資源に関する効果 ②事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	エネルギー消費量の減少（13,528,854kwh） 帳票機密保持型リサイクル（40,536kg） 食品廃棄物リサイクル（1,349kg） レジ袋の軽量化（702,806kg）	4,829,801kg-CO ₂ 32,737kg-CO ₂ — 1,041,250kg-CO ₂
(2) 上・下流コストに対応する効果	③事業活動から産出する財・サービスに関する効果	環境負荷物質の排出量削減（フロン回収・破壊） 米飯・惣菜容器の環境配慮素材への切り替え	42,637,488kg-CO ₂ —
(3) その他の環境保全効果	④緑化活動に関する効果	緑化活動（植樹）による環境負荷の減少	52,897kg-CO ₂

環境保全対策に伴う経済効果 — 実質的效果 —		
効果の内容	金額（単位：千円）	
収益	主たる事業活動で生じた廃棄物のリサイクルまたは使用済み製品等のリサイクルの事業収入	
費用節減	省エネルギーによるエネルギー費節減	
	* 簿外の間接効果（緑の募金）	
	181,119	

◎環境保全コストは環境負荷の発生防止、低減、回避、影響の除去等の取り組みのための投資額及び費用額とし、貨幣単位で算定します。
 ◎ローソンはフランチャイズチェーンを展開しているため、ローソン単体及び加盟店とに分類して明記しています。
 ◎①投資額は集計期間に発生した投資コストを計上し、減価償却費としての費用計上はしていません。②費用額は自主的な環境保全活動及び環境関連法令の遵守のために発生したコストを計上しています。
 ◎加盟店は独立した事業者であるため、直接的に環境保全コスト、環境保全対策に伴う経済効果を把握することは困難であるため、標準的な店舗の数値をサンプルとして推定計算しております。
 ◎環境保全効果の算定方法は、前年度との比較により削減量を計上し、環境保全対策に伴う経済効果については、省エネルギーによるエネルギー費削減として計上しています。
 ◎簿外の間接効果として、1年間のお客さまからの「緑の募金」総額（2003年度：181,119,367円）を計上しています。

地球環境への負荷低減と環境保全活動に 私たちは地道で着実な取り組みを続けています

2003年度環境目的・目標達成状況

ローソンでは、「省資源」「省エネルギー」「有害物質排出量の削減」「騒音対策」「廃棄物の減量とリサイクル」「環境保全への支援と協力活動」の6項目にわたり、目標を掲げて環境保全活動に取り組んできました。

<p>●省資源 事務用消耗品のグリーン購入を促進する ・店舗を除く本社、事業所で使用する品目を実施する</p> <p>●目標 ・東京本社で使用する品目の65%を実施する ・東京本社以外の事業所で使用する品目の55%を実施する</p>	<p>発注数 38,506 (個) エコ数 26,250 実績値 68.2%</p> <p>目標 65.0% 達成率 104.9% 達成 *東京本社 72.3% *東京本社以外 66.0%</p>
<p>●省エネルギー 電圧調整器の設置店数を増加する 〔FC店含む〕(設置店舗の使用電力削減)</p> <p>●目標 ・全店の45%の店舗に設置する</p>	<p>累計設置数 4,082 (店) 年度増加数 244 全店 7,821 目標 45.0% 導入率 52.2% 達成率 116.0% 達成</p>
<p>●有害物質排出量の削減 店舗の要冷機器・空調機の店舗改装、機器入替え時にフロンガスの回収・破壊を完全に実施する</p> <p>●目標 ・店舗の要冷機器・空調機の店舗改装、機器入替え時にフロンガスの回収・破壊を100%実施する</p>	<p>目標値 1,523 (店) 実績 1,523 達成率 100.0% 達成</p>
<p>●騒音対策 消音カーゴ台車の導入を推進する</p> <p>●目標 ・累計76,000台(95%)を導入する</p>	<p>年度導入計画 10,350 (台) 導入実績 2,500 累計導入計画 76,000 累計導入実績 68,150 達成率 89.7% 未達成</p>



●富山地区事務所 酒井 恵さん
事務所みんなの協力でコピー用紙を削減
ISOのシステムが導入された当初、何ヶ月か連続して事務所での電気使用量やコピー用紙の使用量が計画を上回ってしまっていたことがありました。それからというものコピーを取る際には大切な書類以外は裏紙を必ず使い、電気はこまめに消すようになりました。これも事務所のみなさんが環境保全のため、コピー紙や電気使用量を削減しようという意識が強いからだと思えます。



●福岡東地区事務所
佐藤千代子さん、川上具望江さん
定期的にコピーの使用量をチェックしています
毎週、個人別にコピー用紙の使用量を確認し、全員の使用量を報告して月間の目標数値をオーバーしないように注意をうながしています。電気使用量については毎日時間を決めて室内の温度をチェックするとともに、休憩時には確実な消灯を行っています。マネジャーが率先して省資源・省エネルギーに努めてくださるので、事務所のみなさんの意識も変わってきたと思えます。

項目

省資源

省エネルギー

有害物質
排出量の削減

騒音対策

廃棄物の減量化と
リサイクル

環境保全の支援と
協力活動

内容	目標		進捗結果		
	目標	進捗結果			
店舗を除く本社、全事業所で使用するコピー用紙の使用量を削減する。	・99～2001年平均（1人当たり）比2%削減する	2003年総枚数 17,473,114 (枚)	達成		
		1人当たり実績 736 99-01平均枚数 23,712,108 1人当たり実績 779 増減数 -43 削減目標 2.0% 削減率 5.5% 達成率 272.9%			
システム機器消耗品のグリーン購入を実施する	・2001年度の実績把握・削減目標設定(発注量)する	2003年度発注実績 26,772,545 (枚)	達成		
		*削減目標の設定は継続			
・プリンタートナー100%リサイクルする		実績値 896 (個)	達成		
		目標 896 達成率 100.0%			
・帳票の電子化保存の運用を開始する		運用を継続する			
使用電力を削減する。 店舗を除く本社、事業所の使用電力を削減する	・99～2001年平均（1人当たり）比1%削減する	2003年実績 9,042,136 (kWh)	未達成		
		1人当たり実績 276 99-01平均実数 7,763,382 1人当たり実績 257 増減数 19 目標 2.0% 削減率 -7.4% 達成率 -369.4%			
・PCの省電力モードの使用・離席時休止状態を実施する		運用を継続する			
・100%導入する		実績値 610 (店)	未達成		
		目標 614 達成率 99.3% 累計 2,179			
・店舗使用量削減目標設定・取り組みを開始する		店舗使用量削減目標の設定を継続する。			未達成
自社開発商品（弁当・惣菜等）の容器包装について環境配慮素材を使用する（FF・デリカ商品全てを対象）	・自社開発商品の容器包装の素材を透明PPシート・単層発泡シートに順次変更する	目標値 60.0% (切替率)	未達成		
		実績 54.4% 達成率 90.7%			
低公害配送車を導入拡大する	・低公害配送車を73台（累計）導入する（ハイブリッド車含む）	年度導入計画 0 (台)	未達成		
		導入実績 0 累計導入計画 73 累計導入実績 67 達成率 91.8% ※CNG導入推進を中止し、店当たり納品車輛台数削減へ方向性を変更（2003年4月）			
・米飯ベンダーの無洗米導入を検証検討する		継続して無洗米導入を検証検討する			
・累計350台（50%）を導入する		年度導入計画 30 (台)	達成		
		導入実績 30 累計導入計画 380 累計導入実績 499 達成率 131.3%			
SCMシステムの全国導入・維持（米飯・調理パン・惣菜・調理麺ベンダーのうち、20工場に導入する）	・米飯・調理パン・惣菜・調理麺ベンダーのうち、20工場に導入する	目標値 20 (ベンダー)	達成		
		実績 25 達成率 125.0%			
・2003年度比15%削減する		基準SKU 4,786 (SKU)	達成		
		目標SKU 4,068 目標値 85% 実績SKU 3993 実績 83% 達成率 101.9%			
・全店で募金活動を継続する		2003年募金額 181,119,367 (円)			
		*02年実績 166,689,507			
・全国35ヶ所で実施する		植樹計画 35ヶ所	達成		
		実績 46ヶ所 達成率 131.4%			

環境マネジメントシステム (ISO 14001) 2004年度環境目標

地球環境への負荷軽減を目指し、今年度もより一層の工夫をし、努力をしていきます。

2004年度環境目標

●省資源

グリーン購入促進

・本社以外の各事業所
グリーン購入比率 …………… **60%**

・東京本社各部門
グリーン購入比率 …………… **70%**

●省エネルギー

使用電力の削減

・本社以外の各事業所
99～2001年平均(1人当たり)比 … **1.5%**

・東京本社
99～2001年平均(1人当たり)比 … **3.0%**

●有害物質排出量の削減

容器包装の環境配慮素材への切り替え

切替率…………… **63%**

●騒音対策

消音カーゴ台車導入推進

81,300台 (98%)

●環境保全活動実施

緑化事業の推進

(二酸化炭素吸収量の推進) **年40回**

2004年度 環境目標		
方針	取り組み内容	環境目標
省資源	コピー用紙の使用量削減(コピー枚数) コピー用紙の使用量削減(発注量) システム機器消耗品のグリーン購入 帳票の電子化保存の運用開始	99～2001年平均(1人当たり)比3% 2001年実績把握・削減目標設定 プリンターナー100%リサイクル 帳票の電子化保存の継続運用
省エネルギー	省電力モードの設定可能なPC順次切替 電圧調整器の設置推進 店舗電気使用量の削減 新店への自動調光照明システムの導入	省電力モードの設定可能なPC使用 全店の50% 店舗使用量の削減目標設定・取り組み 100%導入
有害物質 排出量の削減	フロンガスの完全回収・破壊 低公害配送車輛(ハイブリッド)の導入推進 米飯ベンダーの無洗米導入	フロンガスの100%回収・破壊 78台(累計) 米飯ベンダーの無洗米導入
騒音対策	消音パワーゲード車導入推進	420台(60%)



●多摩地区事務所 小泉雅恵さん
エコリーダー同士が意見を交換する場を環境負荷を削減するために、両面機能を使用する資料の印刷や、換気をこまめに行ってエアコンの使用時間を減らすなど、できることから一つずつ実施しています。昨年、環境研修を受けてとても参考になりました。これからもエコリーダー同士が意見を交換する場を設けて情報を共有できるようにし、各事務所がステップアップしていけるようにしてほしいと思います。



●コーポレートステーション 石塚孝志さん
具体的な行動を示し、社内を変えていきたい
いま、自分の部署ではコピー用紙の削減に重点的に取り組んでいます。しかし、これからはコピー用紙の削減だけでなく、トップをはじめエコリーダーがもっと環境負荷を削減するための具体的な行動を社内に示すとともに、活動をアピールすることで社内の雰囲気を変えていかなければいけないと考えています。



環境教育の実施

店舗と本部のすべての人が環境問題への理解を深め、的確な行動をとっていくために、オーナーさんへの環境研修、従業員全員への環境研修と、店舗開発や環境監査など専門的な知識を必要とする社員への専門研修を実施しています。

●オーナー研修

オーナーさんは開業時に環境研修を受けるほか、スーパーバイザー(店舗経営指導員)を通じてローソン本部と環境に関する知識や情報を共有しています。

●環境一般研修

全社員が1年に1回必ず「環境一般研修」を受講します。環境保全活動、環境マネジメントシステムについて学びます。



それぞれの立場、視点で現状を把握し改善策を立て、 次の実行に結びつけています

●環境監査・内部監査

ローソンでは環境マネジメントシステムに基づき、内部環境監査を実施しています。店舗では店舗環境監査員により年2回、モバイルの監査チェックシートに基づき実施し、本社の各部門、各事業所、管理センター、ゲストハウス等では一般環境監査員が年1回、専用チェックリストに基づき実施しています。店舗、その他各事業所においても、若干の改善指摘事項は見られたものの、不適合となる事項はありませんでした。



●経営層による見直し

毎年、新たな環境関連法律の制定や法律の改正による法規制の強化があり、ますます環境問題への対応が重要になってきています。

環境マネジメントシステム「ISO14001」に基づく取り組み内容と以下の検討項目などから、2002年度を総括するとともに、経営層の見直しを行い2003年度の主な取り組み課題を設定しました。



環境管理責任者
総務ステーション ディレクター
関 淳彦

目標値を定め全社一丸となって 環境活動の充実を図っていきます

ローソンは、コンビニエンスストアのフランチャイズビジネスを展開する会社です。皆さまの「マチのほっとステーション」として、便利で豊かな生活を実現するパートナーでありたいと願っています。そのためには、創造的な事業活動を展開するとともに、よき市民・よき地球人であることを目指し、自然環境との共生と地域社会への貢献を実現することが不可欠です。

私たちは、社員一人ひとりとはもとより、私たちの事業パートナーである加盟店のオーナーさんやクルーさんも含めて、高い環境意識と社会貢献意識を共有し、日々の実践に務めています。

ローソンでは環境マネジメントシステムを導入しており、全国7,821店舗および全事業所の各々で、エコリーダーが中心となって、「Plan→Do→Check→Action」の手順で、継続的改善に努めています。具体的には、省資源や省エネルギーへの取り組み、コンビニエンスストア特有の課題である食品廃棄物の削減や環境負荷の少ない容器包装への取り組みを中心に、目標値を定めて地道な活動を続けています。各部署間や店舗と本部間など、組織を横断した情報交換や相互チェックも盛んで、全社一丸となって環境活動の充実を図っています。

また、ローソン内部で完結するのではなく、お客さまや地域社会、自治体など、私たちを取り巻くすべての方々との協調を目指していることも、私たちの環境活動の特長です。相互にコミュニケーションを図り、チェックし合うことで、より価値を発揮し合えると考えているからです。社会の持続的発展に向けて、私たちは多くの方々との共鳴を大切にしていきたいと思います。



環境マネジメントシステム関連所見

財団法人日本品質保証機構
マネジメントシステム部門
審査センター主任審査員
中田 智氏

早いもので、今年は、ISO14001の2回目更新審査を迎えます。3年間で振り返り、環境目的・目標の達成は見られたと思います。これからの次の3年間は環境目的・目標を達成することと同時に環境影響をどのように変えるかという視点に立ち、如何に活動展開をするかをお示しいただきたいと思います。今までも先進的な取り組みをされてきたローソンですから、さらなるステップアップと環境活動の領域の変化を期待しています。

今回審査で店舗をまわった際に、環境方針が、支社、スーパーバイザーを通じて店舗に行きわたっていること、店舗の意識が非常に上がったことを感じました。スーパーバイザーがローソンという会社と店舗とをつなぐ、コミュニケーションの重要なパイプ役を担っているのだと思います。一方で課題もあります。食品廃棄物の削減です。これはコンビニ業界全体の問題のようです。個々の店舗は、売上の確保と廃棄物の削減の両立に大変苦しんでいるように見えました。管理指標や評価ポイントを見直すなど、質的改善を実現するマネジメントが必要だと思います。

環境への対応には企業の成熟度（あるいは貢献度）という尺度があります。環境保全、環境対応に対し、より高いレベルにあるのが環境経営です。省エネによるコスト削減など、環境活動を経営メリットに結びつけることはもとより広い範囲での環境に関する社会的責任を果たし、その信頼を得るレベルであります。全店舗で1%のコスト削減ができれば、チェーン全体で年間何千万円といった削減が可能です。ISO14001の取得から6年経ち、経営ツールとして環境マネジメントシステムを活用することによる経済的効果とともに環境影響の直接的及び間接的効果をお考えいただきたいと思います。

環境活動のあゆみ

1976年	4月	チルド商品共同配送拡大	6月	ローソン緑の募金「47都道府県緑化達成」「富士山ローソンの森づくり」（静岡県富士宮市）実施	
1980年		あゆみの箱全店設置（旧サンチェーン）		「聴導犬」の全店受入れ開始	
1989年	3月	社外用封筒の再生紙化（古紙混入30%）		店舗配送車輛の消音化（消音パワーゲート車）対応開始	
	4月	東京本社での古紙回収開始	7月	新物流システム稼働（長野県：甲信DDC）	
1990年	11月	自然環境保護商品「ECOLOGY LIFE」販売	8月	「伊豆諸島地震活動」救済募金実施	
	4月	加工食品・菓子・雑貨の共同配送スタート	9月	「東海集中豪雨被災」救済募金実施	
1991年	9月	社内用紙の再生紙化（コピー用紙、社内印刷物、名刺等）レシートの再生紙使用（再生紙80%）		店舗配送車輛の消音化（消音ラッシングベルト）対応開始	
1992年	1月	「ステーションパーク早稲田店」等計6店の環境福祉対策実験店オープン		会計伝票電子化開始	
		地球環境保護チャリティ募金実施	10月	「菓議書」電子化開始	
	9月	「ローソン緑の街基金」設立	2001年	3月	ペットボトルリサイクル・マテリアルリサイクルの新ユニフォーム採用
1993年	3月	販促資材の再生紙使用（単品POP等）		マイクロガスタービン（コージェネレーションシステム）実験開始（神奈川県：南加瀬4丁目店）	
	4月	第1回「多摩川クリーンエイド」実施	4月	「平成13年芸予地震」救済募金実施	
	8月	北海道南西沖地震の救援ボランティアに参加	5月	「ローソン花と緑の日（5月18日）」設定（毎年5月第3日曜日）	
1994年	2月	「盲導犬同伴可ステッカー」全店で貼付		花いっぱい運動（店頭で花の種子無料配布）、緑いっぱい運動（富士山ローソンの森づくり植樹）	
	5月	第1回ローソン緑の街基金による植樹実施（福岡県：福岡緑化センター）	7月	第1回「鴨川クリーンエイド」実施（河川清掃活動）	
	6月	第1回「福岡ラプアースクリーンアップ」実施		ナチュラルローソン1号店「自由ヶ丘店」（東京都目黒区）オープン	
	10月	第1回「荒川クリーンエイド」実施	9月	三宅島住民「一時帰島」に伴う支援（飲食料の無償提供）	
1995年	1月	阪神淡路大震災に伴う被災地救援の募金活動実施		「米国同時多発テロ事件」被災者救済募金実施	
		フローズン商品の共同配送スタート	10月	第1回「旧豊平川クリーンエイド」実施（河川清掃活動）	
	3月	「ほっとステーションMAP」（地域貢献）展開	2002年	1月	大阪国際女子マラソン「アフガンの子供たちへ」救済募金実施
	9月	名刺を非木材紙（ケナフ）に切り替え	3月	三宅島住民「一時帰島」に伴う支援（飲食料の提供）	
1996年	9月	感熱紙再生紙レシート使用（再生紙50%）	8月	国土交通省（関東地方整備局）「ボランティアサポートプログラム」への参加	
		店舗廃棄物リサイクルシステム（ビン・缶・ペットボトル・段ボールの完全リサイクル）を首都圏（1都3県）でスタート	12月	大阪府「アドプト・ロード・プログラム」への参加	
1997年	1月	日本海沖タンカー重油流出事故に伴う救援物資を寄付	2003年	2月	国土交通省（東北地方整備局）「ロード・セイフティシステム」への参加
	3月	「一店一役運動」（地域社会貢献活動）スタート		スペシャルオリンピックス支援（飲食料の無償提供）	
	9月	神奈川県で「食品廃棄物リサイクル（コンポスト化）」実験スタート	5月	「ローソン花と緑の日（5月16日）」実施（毎年5月第3日曜日）	
		低公害車「圧縮天然ガス」配送車導入	6月	第10回「福岡ラプアースクリーンアップ」実施（公園清掃活動）	
		マテハンリサイクル（配送時のプラスチックコンテナ）導入開始		第6回「淀川クリーンエイド」実施（河川清掃活動）	
		「東京ルールⅢ（ペットボトル店頭回収）」に参加	7月	九州集中豪雨災害救済募金実施	
		大宮市の「ペットボトル店頭回収」に参加		宮城県北部地震災害救済募金実施	
	10月	被災地緑化（兵庫県神戸市）「マリンピア神戸：海辺の森づくり」の実施		神戸市「美ing神戸市民運動（美化運動）」への参加	
		配送車のアイドリングストップ推進	8月	和歌山県と地域協働事業実施に関する協定締結（地域貢献活動、県産品の活用促進など）	
1998年	3月	弁当・惣菜の包装ラップの素材を有毒ガス（ダイオキシン等）の発生しない「ポリオレフィン」に切替え		和歌山県・和歌山国道事務所「道路清掃すたんぶラリー」に参加	
		新型ノベルティアイスクリューケースの代替フロン（オゾン破壊係数ゼロ）導入		国土交通省（中部地方整備局）「ロード・セイフティシステム」への参加	
	5月	環境総合対策実験店「勝島1丁目店」（東京都）オープン		国土交通省（中国地方整備局）「ロード・セイフティシステム」への参加	
		名古屋市の「ペットボトル店頭回収」に参加	9月	台風14号復興義援金募金実施	
	6月	第1回「淀川クリーンエイド」実施		第7回「世界の京都・まちの美化市民総行動」に参加（市内清掃活動）	
	8月	台風4号による集中豪雨（東北地方）に伴う救援物資を寄付	10月	平成15年十勝沖地震災害救済募金実施	
	11月	店舗要冷・空調器廃棄時のフロンガスの回収・破壊処分開始	11月	レジ袋のさらなる軽量化を実施	
	12月	環境マネジメントシステム「ISO14001」認証取得		第10回「荒川クリーンエイド」実施（河川清掃活動）	
1999年	1月	「臓器提供意思表示カード」全店設置		「ISO14001」第4回定期審査受審（システム運用継続）	
	3月	低公害車「ハイブリッド」配送車導入	12月	「全国廃棄物リサイクル推進研究会」スタート	
	4月	「環境保全・社会貢献活動報告書（1998年度版）」発行	2004年	2月	国土交通省（四国地方整備局）「ロード・セイフティシステム（みちばん）」への参加
	7月	「介助犬」の全店受入れ開始		第194回「ローソン緑の募金」緑化事業実施（鹿児島県野田町）	
	8月	リサイクル対応「ユニットトイレ」仕様化			
		「トルコ北西部大地震」救済募金実施			
	9月	「台湾大地震」救済募金実施			
	10月	平成11年秋期 国際協力事業団（JICA）「青年海外協力隊」募集支援活動開始			
	11月	「完封箸・スプーン・フォークの商品添付中止」全店スタート			
2000年	2月	「岩手県軽米町集中豪雨被災（1999年10月28日）」救済募金実施			
		被災地緑化（長崎県深江町）「雲仙普賢岳：災害復興の森づくり」の実施			
		環境対策2号店「沼田インター店」（群馬県）オープン			
	4月	「有珠山火山活動」救済募金実施			

第三者の意見



広島修道大学 人間環境学部の皆さま

消費大国日本に生きる企業として、 環境問題により積極的な取り組みを

広島市内のローソン6店舗から出るゴミの調査を4日間に渡って行い、ゴミの内容を細かく分類しました。分類してみてもわかったことは、店外から持ち込まれるゴミの大半は弁当の容器類であり、その次に多いのがカン・ビン類ということでした。それ以外にも、明らかに家庭から出された物だと思われるゴミが多数ありました。ゴミの中でとくに目についたのは、タバコの吸殻です。店頭に設置してある灰皿だけでなく、弁当容器やビニール袋と一緒に入れているものやカン・ビンの中に吸殻が詰まっているものも多く見られました。また、郊外にある店舗と繁華街にある店舗では店外から持ち込まれるゴミの種類が異なっていることもわかりました。繁華街の店舗に比べて郊外の店舗は店外ゴミの量が多く、これはドライブや通勤、通学の途中などに捨てている可能性が高いと考えられます。

消費者はコンビニエンスストアのゴミ箱を、街のゴミ箱と勘違いしているのではないのでしょうか。

毎日大量の紙やプラスチックが分別されずに捨てられ、また賞味期限切れの食品も大量に捨てられていました。各店舗がきちんと分別し、回収業者に渡せばリサイクルができると思いますので、ぜひリサイクルを検討していただきたいと思います。

今回調査した結果をもとに、私たちは次の3点についてローソンに提案します。

◆提案

① マイバックキャンペーンの実施

コンビニエンスストアで販売したマイバックで購入するとポイントカードなどの特典をつけるとか、値引きするなどキャンペーンを行う。

② 分別基準に対応した店頭のゴミ箱の設置

店頭のゴミ箱は、燃えるゴミ、燃えないゴミ、ビン・カン用をきちんと区別して設置することで、消費者にもゴミの分別に協力してもらうという姿勢を打ち出す。

③ 環境問題により積極的な取り組みを

消費大国日本に生きる企業の責任として、今回のゴミ調査で得られたデータを十分に生かし、ゴミ問題をはじめとした環境問題により積極的に取り組んでもらいたい。

※広島修道大学人間環境学部の皆さまにヒアリングしてまとめたものです

環境経営格付審査を行って

今年、ローソンの環境経営格付審査を行いました。180項目にわたる審査ですが、全体的にはよい取り組みをされているという印象を受けました。特によいと思った点は、環境報告書で定量データを開示していることです。このような報告書は、抽象的なことを書いてよく見せようとするれば、いくらでもできますが、数字ではごまかせません。未達成のものも含めて公開する、その姿勢を評価します。そのほか、環境マネジメントの仕組みがしっかりしていること、独自性のある取り組みをしていることなどを評価しました。特に、ナチュラルローソンは、環境面や健康面のしっかりした品揃えと情報発信で、お客さまの意識を向上させる効果があると思います。

いくつか要望もあります。1つは情報管理です。昨年、ローソンプスの顧客情報漏洩事件がありました。つまびらかに情報開示された点と、事件を踏まえて御社がリスクマネジメントの仕組みをつくった点は評価できます。あとはそれをどれだけ実効性のあるものにしていくかが今後の課題だと思います。

もう1つは環境面で新社長にさらなるリーダーシップを発揮してほしいということです。コンビニエンスストアの社会的責任、とりわけ若い世代に与える影響は非常に大きいので、環境や健康面での情報を強く発してほしいと期待しています。環境の取り組みは、利益を生み出す活動とは相反する面を持っていますから、トップがリーダーシップを発揮しないことには実効性が伴いません。これまで非常にいい取り組みをしているローソンが、さらに持続的に取り組んでいくために、経営全般でリーダーシップを発揮されている新流社長だからこそ、もっと前面に出てこれたらと期待をしています。

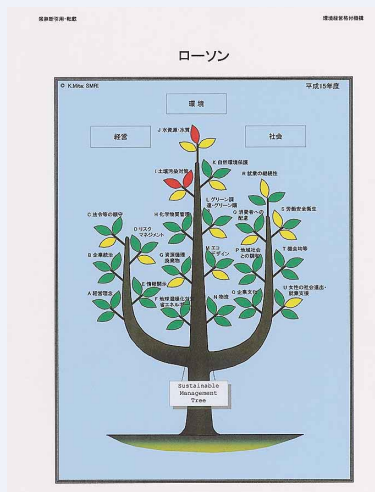


日本政策投資銀行
流通部調査役 菊池武晴氏

環境経営格付評価

2003年、ローソンは環境経営格付機構による「環境経営格付評価」を受けました。これは、環境問題に対する民間の積極的な取り組みを促進するとともに、さまざまなステークホルダーに対して共通の基準を提供することを目的に実施されている環境経営の総合評価です。

環境経営格付機構格付ツリー (Sustainable Management Tree)



「環境経営格付ツリー」は、「経営」「環境」「社会」の分野についてその企業の取り組み状況を表示しています。それぞれの分野について「戦略」「仕組み」「成果」の3側面から設問があり、それらに対する回答が「優」の場合は「緑」、「良」の場合は「黄色」、「可」の場合は「赤」、「不可」の場合は「落ち葉」となります。